

主要事業調書

資料3

中海・宍道湖・大山圏域市長会 主要事業一覧

1. 活力にあふれる圏域づくり(産業振興)

<input type="checkbox"/> 圏域内企業情報データベースの充実、ビジネスマッチング	1
<input type="checkbox"/> 産学・医工連携事業	2
<input type="checkbox"/> 海外商談会参加等支援補助金	3
<input type="checkbox"/> インドとの経済交流事業	4
<input type="checkbox"/> 台湾との経済交流事業	5
<input type="checkbox"/> 山陰いいものマルシェプロジェクト	6

2. 訪ねてみたい圏域づくり(観光振興) ※中海・宍道湖・大山圏域観光局事業

<input type="checkbox"/> クルーズ船寄港時のおもてなし	7
<input type="checkbox"/> 圏域インバウンドプロモーション	8
<input type="checkbox"/> 国内広域観光プロモーション	9
<input type="checkbox"/> 人口集積地(発地型)誘客プロモーション	10
<input type="checkbox"/> 圏域観光再生支援プログラム(アフターコロナ緊急対策事業)	11
<input type="checkbox"/> 圏域周遊促進及び受入環境充実	12

3. 次代につなぐ圏域づくり(保全・継承と活用)

<input type="checkbox"/> 自然環境の豊かさ・保全に係る普及啓発	13
---	-------	----

4. とともに歩む圏域づくり(連携と協働)

<input type="checkbox"/> 圏域内外へのエリアプロモーション	14
<input type="checkbox"/> 圏域内の連携・交流推進	15
<input type="checkbox"/> 人材育成の共同化	16
<input type="checkbox"/> 文化・スポーツ交流促進事業	17
<input type="checkbox"/> 移住・定住等促進事業	18

中海・宍道湖・大山圏域市長会 主要事業一覧

中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン		地方版総合戦略	
1. 活力にあふれる圏域づくり(産業振興)	事業概要	主要施策	主な重点プロジェクト
圏域内企業情報データベースの充実、ビジネスマッチング	圏域内の商工団体と行政で構成する「中海・宍道湖・大山圏域ものづくり連携事業実行委員会」と連携し、圏域内企業の連携支援を行う。	圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展
産学・医工連携事業	圏域内の商工団体、自治体、国立大学、国立工業高等専門学校、研究機関等で構成する「中海・宍道湖・大山圏域産学・医工連携推進協議会」と連携し、圏域内企業の産学・医工連携支援を行う。	圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展
海外商談会参加等支援補助金	海外で行われる商談会等に参加する圏域内の企業へ補助金交付等を行い、海外展開やインバウンドの推進に繋がる取組を支援する。	圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	東アジアをはじめ世界に向けたゲートウェイ機能のさらなる活用
インドとの経済交流事業	インド・ケララ州との経済交流拡大を目指す覚書(MOU)の締結に基づき、企業進出やビジネスマッチング等の実現のため、密接な協力体制の構築支援、情報交換、視察交流等を行う。	圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	インド(ケララ州)・台湾(台北市)との経済交流の拡大
台湾との経済交流事業	台北市との経済等交流促進を目的とした覚書の締結に合わせ、セミナー等を開催し、海外展開への機運の醸成を図る。	圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	インド(ケララ州)・台湾(台北市)との経済交流の拡大
山陰いいものマルシェプロジェクト	山陰の中核地域である中海・宍道湖・大山圏域の官民組織が連携し、山陰が誇る「いいもの」を再発掘するとともに、J/R西日本等とタイアップし、全国へ情報発信をする。	圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展
2. 訪ねてみたい圏域づくり(観光振興) ※中海・宍道湖・大山圏域観光局事業	事業概要	主要施策	重点プロジェクト
クルーズ船寄港時のおもてなし	クルーズ船寄港時、境夢みなとターミナル等にて交流イベントや観光案内を実施するなど、来訪する外国人観光客の周遊促進と満足度アップを図る。	圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	国内及びインバウンド観光の推進
圏域インバウンドプロモーション	圏域を一体的に発信する利点を活かし、重要ターゲット国(韓国、台湾、香港、中国、欧米豪)を定め、JNTO、山陰DMOと役割分担し、国別に有効な観光プロモーションを実施する	圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	国内及びインバウンド観光の推進
国内広域観光プロモーション	国内旅行市場が全体に占める観光消費は高いことから広域的に多様な情報を発信して誘客を促進し、圏域への経済効果を高める。	圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	国内及びインバウンド観光の推進
人口集積地(発地型)誘客プロモーション	人口集中地域である大都市部をターゲットとし、圏域の魅力や観光資源を積極的に情報発信し、圏域の認知度向上、観光誘客を図る。	圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	国内及びインバウンド観光の推進
圏域観光再生支援プログラム(アフターコロナ緊急対策事業)	新型コロナウイルス感染症の影響を受けている観光産業の再生を支援するとともに、回復期に合わせた海外への継続的な情報発信と受け入れ環境の整備に取り組む。	圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	国内及びインバウンド観光の推進
圏域周遊促進及び受入環境充実	地域連携DMOの役割である「かせげる圏域づくり」を目指し、圏域観光の魅力充実させ、国内外から圏域へ来訪する観光客の受け入れの充実を図るなど、リピーターの確保に繋がる取組を実施する。	圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	国内及びインバウンド観光の推進
3. 次代につなぐ圏域づくり(保全・継承と活用)	事業概要	主要施策	重点プロジェクト
自然環境の豊かさ・保全に係る普及啓発	圏域の次代を担う子どもたちへ、自然環境に関する学習機会の提供等を行い、圏域の自然の豊かさや環境保全について普及啓発を図る。	恵まれた生活環境を活かした圏域の形成	自然環境の保全と活用
4. ともに歩む圏域づくり(連携と協働)	事業概要	主要施策	重点プロジェクト
圏域内外へのエリアプロモーション	圏域振興ビジョンに示す圏域の将来像、ビジョンや市長会の活動の広報周知に努めるとともに、圏域内での一体感醸成、圏域外における認知度向上のための情報発信を行う。	圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成 未来をひらく交通ネットワークの形成 恵まれた生活環境を活かした圏域の形成	※全プロジェクト共通
圏域内の連携・交流推進	圏域内の行政間や民間団体間、行政と民間団体等の更なる連携と交流を図る	未来をひらく交通ネットワークの形成	2つの湖を介する「8の字ルート」等の早期完成 新幹線ネットワークの整備
人材育成の共同化	圏域内における人的交流の推進による一体感の醸成を図り、圏域を担う人材育成に向けた取組を行う。	恵まれた生活環境を活かした圏域の形成	圏域への移住・定住の促進
文化・スポーツ交流促進事業	圏域内の歴史資源、伝統芸能、スポーツ、芸術など、相互交流を推進することにより、魅力ある圏域を知り、心豊かな生活環境を創出する。	恵まれた生活環境を活かした圏域の形成	圏域への移住・定住の促進
移住・定住等促進事業	圏域人口60万人の維持に向けた移住・定住等の促進を図る。	恵まれた生活環境を活かした圏域の形成	圏域への移住・定住の促進

圏域市長会 主要事業調査

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域企業の産業連携支援事業 圏域内企業情報データベースの充実、圏域内企業のビジネスマッチング

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域内の特色ある産業に対し、本事業による販路拡大、共同開発、技術支援、業務提携などを通じて、各事業の成長、維持を促進し、もって圏域経済の活性化を図る。	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	目標(何を達成するのか)	ビジネスマッチング商談件数	479	438		
	ビジネスマッチングによる商談件数	数値目標 ○R2～R6の累計3,400件(680件/年あたり)				

事業内容	<p>市長会より「中海・宍道湖・大山圏域ものづくり連携事業実行委員会」に委託し、以下の事業を実施。</p> <p>1 圏域内企業情報データベース事業 圏域内企業の産業連携や域外企業との新たな事業連携を促進するため「圏域ものづくりnet」の掲載企業情報を充実させ圏域内外への情報発信を強化する。</p> <p>2 圏域内企業ビジネスマッチング事業 ビジネスマッチング(商談会・名刺交換会)を開催し、販路拡大、共同開発、技術支援、業務提携などを促進する。</p>
------	---

	R4実績	R5実績	R6計画
事業の成果及び実績	<p>1 圏域内企業情報データベース事業 登録企業数 707社 年間アクセス数 659,958件</p> <p>2 ビジネスマッチング商談展示会 対面式商談会を実施。 日程:10月13日(木) 会場:くにびきメッセ(松江市) 参加企業数 196社 商談件数 479件</p>	<p>1 圏域内企業情報データベース事業 ビジネスマッチング商談会エントリー企業に圏域ものづくりnetへの登録を商工会議所等を通じて促す。 登録企業数 724社 年間アクセス数 602,205件</p> <p>2 ビジネスマッチング商談展示会 対面式商談会を実施。 日程:10月19日(木) 会場:米子コンベンションセンター(米子市) 参加企業数 179社 商談件数 438件</p>	<p>1 圏域内企業情報データベース事業 ビジネスマッチング商談会エントリー企業に圏域ものづくりnetへの登録を商工会議所等を通じて促す。</p> <p>2 ビジネスマッチング商談展示会 対面式商談会を実施予定。 日程:10月31日(木) 会場:安来市総合文化ホールアルテピア(安来市)</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4	R5		R6	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	7,730	10,350		6,372	11,550
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0
	補助金	0	0	0	0
	特定負担金	0	0	0	0
	一般負担金	7,730	10,350	6,372	11,550
歳入合計	7,730	10,350		6,372	11,550

課題	<p>既存の「ものづくりnet」の広報機能を活用するなど、圏域内外に広く情報発信し、参加企業の増加を図る必要がある。 オンラインによる商談では、対面での開催時の半分程度に留まる結果となっており、対面とオンラインと両方を長所いかした方法を検討していく必要がある</p>	方向性	<p>山陰で最大規模の商談会に位置付けられており、事業効果も高いと考えられることから、随時、企業ニーズ等を柔軟に計画に反映させながら、事業継続していく。</p>
----	---	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	活力にあふれる圏域づくり
	基本目標	・力強い産業圏域の形成 ・地産外商による稼ぐ圏域の実現
圏域版第2次総合戦略	主な取り組み	圏域企業の産業連携の支援
	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展
KPI	ビジネスマッチング商談件数	

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	6月	ビジネスマッチングエントリー受付		
	10月	ビジネスマッチング商談会の開催(安来市)		
		実行委員会の開催(事業計画・予算の審議)		
		幹事会・担当者会議の開催		

本事業の経過及び関連する主要データ													
【本事業の経過】													
H17年 「中海圏域産業技術展」を開催 実行委員会・・・中海周辺4市1町の行政、商工会議所、商工会で組織													
H19年 中海市長会設立													
H24年 中海・宍道湖・大山圏域市長会設立 現組織構成の実行委員会が組織され「中海・宍道湖・大山圏域ビジネスマッチング商談会」を開催													
H25年 事務局を松江市(まつえ産業支援センター)に固定化													
【主要データ】													
1 実行委員会 委員構成 各市商工会議所・商工会 工業部会長、各市産業担当部長 ※R5年度 実行委員長:米子商工会議所 工業部会長 永井善郎													
2 幹事会 委員構成 各市商工会議所・商工会 事務局長等、各市産業担当課長													
3 事務局 H17～H22:開催地商工団体、H23:松江市、H24:米子商工会議所、H25以降:まつえ産業支援センター(ものづくり産業支援センター)													
4 開催地													
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
	米子	安来	境港	出雲	米子	松江	安来	平田	オンライン	オンライン	松江	米子	安来(予定)
5 過去の実績													
・圏域ものづくりnet													
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			
	登録企業数	468	516	542	568	579	601	695	707	724			
	年間アクセス数	288,530	347,405	460,301	476,004	541,952	525,415	619,575	659,958	602,205			
	月平均アクセス数	24,044	28,950	38,358	39,667	45,162	43,784	51,631	54,996	50,183			
・ビジネスマッチング													
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			
	参加企業数	265	236	301	285	291	163	163	196	179			
	商談件数	528	456	711	651	663	318	263	479	438			
※R2、R3:オンライン商談会													

総合戦略推進委員会での評価及び意見	
・商談件数は一つのベンチマークにはあるとは思いますが、より付加価値があるものというのは、そこでいくらビジネスとして成立したのかということが、非常にいいものなのかなと思います。(H30意見)	
・引き続き、マッチングのための事業は必要。民間の事例(例えば、銀行などが行っている事業)も参考に、有効な手法で実施することが望まれる。(H28意見)	

圏域市長会 主要事業調査

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域企業の産業連携支援事業 産学・医工連携事業

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	目標(何を達成するのか)	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	圏域の自治体、事業者、国立大学医学部などで行われている産学・医工連携の取組を推進する。	医療機器等の実用化件数	1件	0件		
	・医療機器等の実用化 ・支援事業相談件数 ・マッチング成立件数 について前年程度の実績を維持する	人口・開発・出口の支援事業相談件数	145件	125件		
		人口支援事業のマッチング成立件数	18件	19件		

事業内容	<p>○圏域の自治体、事業者、病院、国立大学、高専の産官学で行われている医工連携の取り組みを一層前進させるため、支援体制を整備し、各種ニーズとシーズのマッチング機会の提供(入口支援)、研究への指導・助言等(開発支援)及び製品化された器具等の圏域内外への販路開拓(出口支援)等、各段階における支援事業を展開する。</p> <p>○中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会、中海・宍道湖・大山圏域市長会、国立大学、高専等で構成する「中海・宍道湖・大山圏域産学・医工連携推進協議会」に委託し、事業実施する。</p>
------	--

事業の成果及び実績	R4実績	R5実績	R6計画
	<p>○医療・福祉・介護機器開発支援(マッチング支援、開発支援、販路開拓支援、各種相談支援) 【新製品開発・実用化(1件)】 ・医療廃棄物容器用電動開閉装置「ミューカス」 ・マスクサポート(不織布マスク用装着補助具)の販売支援 ○ニーズ検討及び案件化 ○普及広報活動 ○アドバイザー等による事業推進・支援</p>	<p>○医療・福祉・介護機器開発支援(マッチング支援、開発支援、販路開拓支援、各種相談支援) 【新製品開発・実用化】 ・「ミューカス」の低価格化の検討支援 ・医療用放射線量データファイルシステム「ラドファイルX」の開発・製造支援 ・鼻腔拡張器「ハナタカ」の開発・製造支援 ・「マスクサポート」の販売支援 ・救急車用上肢台(着脱式)の開発・製造支援 ○ニーズ検討及び案件化 ○普及広報活動 ○アドバイザー等による事業推進・支援</p>	<p>○医療・福祉・介護機器開発支援(マッチング支援、開発支援、販路開拓支援、各種相談支援) ○ニーズの調査・検討及び案件化 ○普及広報活動 ○アドバイザー等による事業推進・支援</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4	R5		R6	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	10,232	10,970		10,928	9,570
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0
	補助金	0	0	0	0
	特定負担金	0	0	0	0
	一般負担金	10,232	10,970	10,928	9,570
歳入合計	10,232	10,970		10,928	9,570

課題	<p>費用対効果を上げていくために、圏域企業への事業を広めていく必要がある。 新製品開発にはある程度の期間が必要であり、かつ企業の開発資金が必要となる。</p>	方向性	<p>令和5年度の実用化はなかったが、マッチング成立件数は増加しており、今後の新製品の開発等も期待ができる。 事業計画や予算、事業の継続について検討する必要がある。</p>
----	--	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	活力にあふれる圏域づくり
	基本目標	力強い産業圏域の形成・地産外商による稼ぐ圏域の実現
圏域版第2次総合戦略	主な取組み	圏域企業の産業連携支援
	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展
KPI		

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容

本事業の経過及び関連する主要データ
<p>【本事業の経過】 H27年 5市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の広域連携施策として「産学・医工連携による圏域経済の活性化」を掲げる。 H28年5月 H28年度地方創生推進事業交付金企画として、米子市から医工連携事業(医工連携組織設置)について提案あり。 H28年12月 上記交付金交付決定(H28～R2年度) H29年10月 中海・宍道湖・大山圏域産学・医工連携推進協議会設立 (設立発起人:中海・宍道湖・大山圏域市長会、中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会) 【中海・宍道湖・大山圏域産学・医工連携推進協議会】 【協議会委員構成(※R5年度内容)】 ○中海・宍道湖・大山圏域市長会(5市産業振興担当部長、事務局長)、 ○中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会(会長、幹事長)、○島根県産業技術センター(副所長)、 ○(地独)鳥取県産業技術センター(理事)、○(公財)しまね産業振興財団(理事・事務局長)、 ○(公財)鳥取県産業振興機構(販路開拓支援部長)、○国立大学島根大学(理事・副学長)、 ○鳥取大学研究推進機構(研究戦略室 URAオフィス・設備サポート URA准教授)、 ○(独)国立高等専門学校機構 松江工業高等専門学校(環境・建設工学科教授)、 ○(独)国立高等専門学校機構 米子工業高等専門学校(医工連携研修センター長) ※会長:米子商工会議所会頭(ブロック協会長)、副会長:中海・宍道湖・大山圏域市長会事務局長 【事務局】 R2年度まで:米子商工会議所、R3年度から:米子市経済戦略課 【事業状況】 ○圏域内企業等の技術を活かした医療機器等の実用化 1例目:「胃マクラ」(H29開発、H30販売開始。胃がん検診精度向上のためのクッション。合同会社放射線システム(大山町)) 2例目:「トリアボックス」(R2開発、販売開始。医療従事者用飛沫感染防止ボックス。鳥大医学部附属病院他) 3例目:「エマーケイックプロ」(R2開発、販売開始。救急隊員用飛沫感染防止ボックス。鳥取県西部広域行政管理組合消防局他) 4例目:「ピーケンサ」(R3開発、販売開始。歯周ポケット測定器。(株)バタカラ(東京)、(有)出雲樹脂(出雲)、社会福祉施設(松江)) 5例目:「マスクサポート」(R3販売支援 (株)ケイケイ(八頭町) 米子市役所内福祉の店おおぞらでの販売等) 6例目:「ミューカス(医療廃棄物容器用電動開閉装置)」(開発。(株)カノン、(有)ニシモト、(株)日本マイクロシステム。鳥取県済生会境港総合病院)(R4年度)</p>
賛助会員数 85社(令和6年3月末)

・R2年度をもって交付金事業としての取組は終わるわけだが、頑張っている事業なので、今後も継続して取組を進めて欲しい、(R3意見)
・圏域の高齢化が進んでおり、医療や福祉と製造業との連携がうまく進んでいけば良い。意義ある事業なので、今後も取り組むべきであるが、今一度戦略を練るべき。(R2意見)
・例えば実用化件数がゼロとなっていますが、プラットフォームそういった窓口ができたことの評価は大きなことであるし、圏域の人口当たりの医師数であったり、福祉関係の施設数からもこの圏域がやる意味はあると思います。単純に数値が0%だからと言って評価なしではなく、むしろ相談窓口ができたことは今後も含めて評価し継続すべきだと思います。(R1意見)
・医工連携事業について、圏域内での周知や医療機関へのニーズ調査が足りていないことが、マッチングが進まない要因の一つと考えられる。コロナ禍で医療機関に向向いていけない状況であれば、ことさら圏域内の周知を図っていただきたい。(R4意見)

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域内企業の海外展開支援事業 海外商談会参加等支援事業

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	海外で行われる商談会等に参加する圏域内の企業等に対して補助金を交付し、企業等の海外への展開やインバウンドの推進に繋がる取組を支援する。	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	目標(何を達成するのか)	補助事業者数	25	11		
	補助金の利用促進(補助事業者数)					

事業内容	<p>圏域の事業者が、海外で開催される観光及び物産に関する商談会等へ参加するために要する経費を一部補助する。 〔対象者〕 圏域5市に本社または主たる事業所を有する中小企業等または複数の企業により構成されるグループ・団体 〔補助金額〕 原則、補助対象経費の1/2 補助上限額10万円 ただし、以下の場合は、①に応じた補助率、補助上限額。 ①韓国、中国、インド及び台湾での商談会に参加等する場合 補助対象経費の2/3 補助上限額15万円</p>
------	--

事業の成果及び実績	R4実績	R5実績	R6計画
	<p>○海外商談会参加等支援補助金 25件 3,600千円</p>	<p>○海外商談会参加等支援補助金 11件 1,552千円</p>	<p>○海外商談会参加等支援補助金 ※回数制限等については少なくとも3年毎に産業振興担当課長会において見直しを行う。(次回R7)</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4	R5		R6	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	3,600	3,000		1,552	3,000
財源内訳	国・県支出金	0			
	補助金	0			
	特定負担金	0			
	一般負担金	3,600	3,000		1,552
歳入合計	3,600	3,000		1,552	3,000

課題	<p>アフターコロナの対応として、県、市、支援機関の同様の補助金との棲み分けを明確にしていくとともに、利用件数を増やすため、積極的なPRを実施する必要がある。</p> <p>アフターコロナの対応も含め、補助回数の制限について、検討する必要がある。</p>	方向性	<p>市長会事業の海外展開支援施策として継続実施し、今後の海外渡航等の状況回復も見据え、海外展開に向けた圏域企業の活動を後押しする。</p>
----	---	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	・活力にあふれる圏域づくり ・訪ねてみたい圏域づくり
	基本目標	・力強い産業圏域の形成 ・東アジアに向けたゲートウェイ機能の向上と活用 ・インバウンド観光の促進
	主な取組み	・圏域内企業の海外展開支援 ・圏域インバウンドプロモーション
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	・東アジアをはじめ世界に向けたゲートウェイ機能のさらなる活用 ・インド台湾との経済交流の拡大 ・圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展 ・国内およびインバウンド観光の推進
	KPI	

本事業の経過及び関連する主要データ

『海外商談会参加等支援補助金』(H24年5月1日施行)

○補助金交付実績の推移

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
補助事業者数	30	18	18	5	13	15	5	16	0	0	25	11
補助金額(千円)	3,455	3,285	2,898	663	1,818	2,834	308	1,364	0	0	3,600	1,552

○対象国 補助事業別 (件)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
香港	1	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	5
中国	2	1	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	9
韓国	2	0	0	1	2	1	4	0	0	0	0	1	11
台湾	15	1	0	2	3	1	1	16	0	0	25	10	74
ロシア	5	6	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	18
米国	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
フランス	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
米国・ドバイ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
中国・台湾・タイ等	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ギリシャ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ベトナム	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
タイ	0	0	4	0	2	1	0	0	0	0	0	0	7
インドネシア	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
シンガポール	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
インド	0	0	0	0	3	9	0	0	0	0	0	0	12
計	30	18	18	5	13	15	5	16	0	0	25	11	156

○補助事業者所在地 各市別件数 (件)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
安来市	3	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	8
米子市	2	1	1	0	3	2	0	1	0	0	3	0	13
松江市	15	7	8	3	6	6	4	11	0	0	17	6	83
出雲市	8	8	7	2	2	6	1	3	0	0	4	4	45
境港市	2	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	7

○補助対象経費(第7条関係)

区分	改正後
会場費	登録料など出展又は参加に際し必要となる経費(オンライン商談会の主催者が定めた参加料含む)
現地通訳費	商談時における現地通訳に要する経費(オンライン商談会の通訳費含む)
輸送費	展示品、パンフレット等の輸送に係る経費、保険料等(オンライン商談会のためのサンプル品等の輸送費含む)
宣伝活動費	商談会等(オンライン商談会含む)において配布する自社又は自社製品に係るパンフレット、展示パネル、PR資料の作成等に要する経費であって、当該商談会等に参加するため新たに作成したものに限り、翻訳費用等を含む。

総合戦略推進委員会での評価及び意見

総合戦略推進委員会での評価及び意見

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域内企業の海外展開支援事業 インドとの経済交流事業

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	目標(何を達成するのか)	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
・インドIT等人材の圏域内企業への就職 ・圏域企業とインド企業との業務提携 ・インド人留学生インターンシップ受入れ	インドケララ州との経済交流拡大を目指す覚書(MOU)の締結に基づき、企業進出やビジネスマッチング等の実現のため、密接な協力体制の構築支援、情報交換、視察交流等を行う。	インドIT等人材の圏域内企業への就職者数(人)	2	3		
		日印間業務提携企業数(社)	0	0		
		インド人留学生インターンシップ受入れ人数(人)	4	8		

事業内容	<p>○平成27年にインドケララ州政府と締結した経済交流を拡大する覚書(MOU)の具体化を図るため、山陰インド協会等の関係団体と連携し、総合戦略に掲げる『圏域企業の海外進出支援のための官民挙げた「インド」進出』及び人材確保実現に取り組む。</p> <p>○圏域とインド・ケララ州をつなぐグローバルな視野を持つIT等理系分野及び日印間のビジネスを担う高度人材を、留学制度やインターンシップ、ケララ州での日本語教育を通じて養成し、圏域IT企業をはじめとする企業への就職及び日印企業の業務提携に繋げる。</p> <p>○「中海・宍道湖・大山圏域インド人材受入・企業連携推進事業実行委員会」へ委託し、事業実施する。</p>
------	---

事業の成果及び実績	R4実績	R5実績	R6計画
	<p>○インターンシップ開催 ・ラジャギリ工業技術大学から島根大学への交換留学生 4名 ・インドケララ州の大学生 5名 ○日本語教育支援(オンライン)</p>	<p>○インターンシップ開催 ・ラジャギリ工業技術大学から島根大学への交換留学生 3名 ・インドケララ州の大学生 5名 ○日本語教育支援(オンライン) ○ビジネスピッチコンテストの開催</p>	<p>○インターンシップ開催 ・ラジャギリ工業技術大学等から島根大学への短期留学生 ・インドケララ州の大学生 ○日本語教育支援(オンライン) ○ジャパンメラ出展</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4	R5		R6	備考	
	決算	当初予算	補正・流用後	決算		予算
事業費	8,397	15,421		10,476	15,295	・地方創生推進交付金(H30~R2年度) ・R6の財源として ククリア助成金申請
財源内訳	国・県支出金	0	0			
	補助金	3,500	3,500		3,500	
	特定負担金	0	0			
	一般負担金	4,897	11,921		6,976	
歳入合計	8,397	15,421		10,476	15,295	

課題	<p>徐々にではあるが、圏域内企業に就職する人数も増えてきている状況ではある。しかし転職、自己都合による帰国、人事異動により、離職された方もある。獲得した人材をできるだけ、圏域にとどめる方法・対策について検討する必要がある。</p>	方向性	<p>圏域独自の先進的な取り組みであり、これまでのケララ州との交流を止めることなく、費用対効果も考えながら、圏域企業に効果的な事業計画を、事業継続する。島根大学短期留学生の参加など、より高い日本語能力を有し、日本社会を理解した人材登用ができるよう工夫する。IT分野に限らず人材が不足する理系分野でのインド人材のインターンシップを実施することによって圏域への就職につなげる。</p>
----	--	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	活力にあふれる圏域づくり
	基本目標	・力強い産業圏域の形成 ・地産外商による稼ぐ圏域の実現
	主な取り組み	圏域内企業の海外展開支援
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	・インド(ケララ州)・台湾(台北市)との経済交流の拡大 ・圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展
	KPI	

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
			インターンシップ開催	
		日本語教育支援(オンライン)		

本事業の経過及び関連する主要データ	
【本事業の経過及び参考動向】	<p>H24年10月 インド哲学、比較思想学的世界的権威で松江市名誉市民の故中村元博士を顕彰する中村元記念館が松江市八東町に開館。</p> <p>H25年 6月 山陰インド協会設立、第1回インド経済視察団の実施。</p> <p>H26年11月 インド経済視察団として、5市長参加。南インドケララ州で州政府知事やコチ市長らと懇談。</p> <p>H27年12月11日 中海・宍道湖・大山圏域市長会とケララ州政府、中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会とINJACK(印日商工会議所ケララ)が経済交流覚書(MOU)調印。首脳会談を前にした安倍首相、モディ首相に報告。</p> <p>H29年 2月 ケララ産業展へブース初出展</p> <p>11月 ジャパンメラへ圏域企業出展、圏域IT企業インド市場視察</p> <p>H30年 9月 市長会や島根大学等がケララ州へ日本語教員を派遣。</p> <p>R 1年11月 ケララ州首相ほか政府代表団が初来圏。</p> <p>R 3年 2月 山陰・ケララ州 オンラインビジネスフォーラム開催</p> <p>【中海・宍道湖・大山圏域インド人材受入・企業連携推進事業実行委員会】 〔委員構成(※R5年度内容)〕 ○島根大学学術研究院理工学系教授 ○(一社)島根県情報産業協会理事及び監事 ○しまねOSS協議会会長 ○経済産業省 中国経済産業局 地域経済部 製造・情報産業課長 ○(独)日本貿易振興機構島根貿易情報センター所長 ○島根県産業振興課産業デジタル推進室長 ○鳥取県産業未来創造課長 ○山陰インド協会理事事務局長、 ○中海・宍道湖・大山圏域市長会 事務局長及び5市産業振興担当部長 ○中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会 幹事長及び幹事 ○コアメンバー代表 ○顧問:(一財)Rubyアソシエーション理事長</p> <p>〔事務局〕 松江市 まつえ産業支援センター(～R5年度) 新産業創造課(R6年度～)</p>
【事業状況】	<p>就職先企業 H30 (株)モンスターラボ 2名 (株)オネスト 2名 (株)島根県情報処理センター 1名 R3 東亜ソフトウェア(株) 2名 R4 (株)ERISA 1名 (株)ブレイブスタジオ 1名 R5 東亜ソフトウェア(株) 2名 ブレイブスタジオ 1名</p>

総合戦略推進委員会での評価及び意見	
・R2年度をもって交付金事業としての取組は終わるわけだが、頑張っている事業なので、今後も継続して取組を進めて欲しい、(R3意見)	・海外への戦略は限定した国をターゲットにせずに多角的に戦略を練るべき。効果の有無、費用をどれくらいかけるかを今一度検討し、戦略を練っていかないと。出雲にはインド人材を受け入れた企業もあり、本人や企業から話を聞く限りでは、この事業を前向きに捉えている。人的交流は良いことだと思っている。(R2意見)
・表向きやる気はあっても結果がすべてではないか。(R2意見)	・インターンシップの14人が多いのか少ないのか、結構費用もかかってしまったので、費用対効果が適当なのか。課題をしっかりと今回の事業を通して検証してほしい。(R1意見)
・インドは、これからの人口爆発の国でもありますし、市場としても人材としても注目することはいいと思います。ただ費用対効果の部分はどうかと思う。(R1意見)	・全国でも先行してこの圏域がインドへ進出しているというふう思うので、進めていただきたいと思うが、ビジネスマッチングができていない。向こうのニーズが何なのか分析したうえで、圏域企業にそのニーズにマッチする参加を募ることが必要(H29意見)

圏域市長会 主要事業調査

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域内企業の海外展開支援事業 台湾との経済交流事業

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	市長会と台北市間の経済交流促進を目的とした覚書の締結に合わせて、セミナーを開催し、圏域企業の海外展開への機運醸成を図る。また春節前建国花市に合わせて圏域PRを行う。	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	目標(何を達成するのか)	境港における台湾との貿易額(貨物の通関額)(百万円)	4,725	3,257	4,745	
	台湾との経済交流促進による中小企業活性化	商談会等におけるマッチング件数の割合(%)	-	2.7	10	
		商談会等における成約及び成約見込み数の割合(%)	-	0	10	
		台湾向け商品の作成・提案件数	-	0	10	

事業内容	<p>○中海・宍道湖・大山圏域市長会と台北市との覚書の締結に合わせて、セミナー等を開催し、圏域企業の海外展開への機運の醸成を図る。</p> <p>○春節前建国花、台北温泉祭に合わせた圏域PRを行う。</p> <p>○圏域企業と台湾との経済交流を推進する。</p>
------	---

	R4実績	R5実績	R6計画
事業の成果及び実績	<p>○覚書締結(5市長訪台)</p> <p>○台湾経済団体への訪問・建国花市への参加</p>	<p>○事業推進のための支援組織立上げ</p> <p>○圏域内企業の「フード台北(台北国際食品展)」への参加支援。</p> <p>○圏域企業への台湾に係る意識調査、台湾での調査</p> <p>○台湾での経済活動促進に向けたセミナー等の開催。</p> <p>○春節前建国花市、台北温泉祭に合わせた圏域PR</p> <p>○台北市との交流促進のため、文化交流イベント(どじょうすくい踊りの披露・体験)を開催。</p>	<p>○台湾人材の雇用</p> <p>○事業推進のための支援組織運営</p> <p>○販売戦略・商品、製品、サービス開発に向けた支援</p> <p>○ビジネスマッチングの開催</p> <p>○春節前建国花市、台北温泉祭に合わせた圏域PR</p> <p>○圏域内企業の「フード台北(台北国際食品展)」等への参加支援。</p> <p>○台北市との交流促進のため、文化交流イベントを開催。</p> <p>○圏域内企業、支援機関、行政向けの台湾セミナー開催</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4	R5		R6	備考	
	決算	当初予算	補正・流用後	決算		予算
事業費	5,113	11,000		10,354	15,830	
財源内訳	国・県支出金	0	4,717		3,750	デジタル田園都市国家構想交付金 R5~R7
	補助金	0	0			
	特定負担金	1,700				
	一般負担金	3,413	6,283		6,604	
歳入合計	5,113	11,000		10,354	15,830	

課題	締結後の具体的な取組みについて更なる検討を行い、交流促進を具現化していく必要がある。	方向性	これまでの圏域と台北市との交流を止めることなく、圏域企業にとって有効な事業を継続実施するとともに、圏域と台北市との新たな交流事業を検討する。
----	--	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	・活力にあふれる圏域づくり ・訪ねてみたい圏域づくり
	基本目標	・力強い産業圏域の形成 ・北東アジアに向けたゲートウェイ機能の向上と活用 ・地産外商による稼ぐ圏域の実現 ・インバウンド観光の推進
	主な取組み	圏域内企業の海外展開支援 ・圏域インバウンドプロモーション
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	・インド台湾との経済交流の拡大 ・圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展 ・国内およびインバウンド観光の推進
	KPI	

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	6月	台湾での商談会参加支援	11月	商談会開催
	10月	台湾向けセミナー		
	11月	台北温泉祭での圏域PR		
	1月	建国花市での圏域PR		

本事業の経過及び関連する主要データ
<p>【本事業の経過及び参考動向】</p> <p>H26年7月25日 松江市と台北市間の交流促進覚書締結。</p> <p>〔覚書内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光情報等の相互発信と共有、観光広報活動の積極的支援する。 ・経済、観光、文化、教育等、多方面での交流を活性化させるため、関係団体が行う活動を支援する。 <p>※有効期間:5年。(有効期間満了時、両市は公文書で延長期間を決定し覚書を締結すると記載あり)</p> <p>H31年1月 圏域5市長が台北市へ訪問し、柯文哲台北市長ほか幹部を表敬懇談。H31年から5か年の「5市と台北市における経済等交流促進覚書」を締結し、交流活動を推進することを確認。</p> <p>R4年10月 圏域と台北市の交流促進覚書を締結</p> <p>R5年1月 経済界と共に、台北市内の経済団体、台日産業連携推進オフィス(TJPO)、日本台湾交流協会、台湾貿易センター(TAITRA)を訪問し、今後の経済 交流に向けて意見交換</p> <p>〔覚書内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 観光誘客・物産の流通促進に向けたプロモーション 2 産業・経済分野における連携・協力 3 青少年等による文化・芸術・スポーツ等の交流 4 そのほか、相互の発展のために必要な事業の実施及び支援 <p>【事業状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○春節前建国花市会場における「中海・宍道湖・大山圏域フェア」の開催(H24、25年度) 台北市において、圏域の物産・観光をPRするため、フェアを開催。建国花市へ中海・宍道湖・大山圏域PRブース出展。 <ul style="list-style-type: none"> ・H25年2月 圏域14事業者の商品販売 ・H26年1月 圏域15事業者の商品販売 ※松江市国際観光課と連携し、圏域観光PRブースを併設 ○春節前建国花市会場における「圏域特産品物販企画」の開催(R2年度) ○春節前建国花市会場における「圏域観光PRブース出展及び特産品物販企画」の開催(令和4年度) ○台北温泉祭での圏域PRブース設置(圏域観光局・皆生温泉) 春節前建国花市会場における圏域観光PRブース、ステージイベント及び特産品試食、文化交流イベントの開催 中海・宍道湖・大山圏域台湾交流事業実行委員会の設立(令和5年度)

総合戦略推進委員会での評価及び意見	<p>・海外への戦略は限定した国をターゲットにせずに多角的に戦略を練るべき必要があると思う。効果の有無、費用をどれくらいかけるかを今一度検討し、戦略を練っていかないといけない。圏域として、海外に進出する、海外から誘客する部分は重要なものと認識している。(R2意見)</p>
-------------------	--

圏域市長会 主要事業調査書

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	山陰いいものマルシェプロジェクト

事業の目的と目標	目的 (何のために)	数値目標				
	山陰の中核地域である中海・宍道湖・大山圏域の官民が連携して山陰が誇る「いいもの」を再発掘し、JR西日本とタイアップして全国へ発信する。	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	目標 (何を達成するのか)	設定なし				
	売上額、商談件数の増加					

事業内容	<p>○山陰の質の高い農水産品や加工品、工芸品などを広くPRするとともに、圏域を中心に産品の消費拡大や生産振興、さらには圏域内外の生産者と消費者の交流を通じたビジネスマッチングの創出などを図る。 (「山陰いいものマルシェ」「JR西日本とのタイアップによる圏外発信」「ビジネスマッチングを促す研修会、交流会等の開催」)</p> <p>○中海・宍道湖・大山圏域市長会、中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会、JR西日本、山陰中央新報社、日本貿易振興機構(ジェトロ)の5者で構成する「山陰いいものマルシェプロジェクト実行委員会」と実施に関する協定を締結し、市長会が開催経費を負担して、事業実施する。</p>
------	--

	R4実績	R5実績	R6計画
事業の成果及び実績	<p>○圏域内マルシェ開催及び商談会 マルシェ 日時:12月11日(日) 会場:中海ふれあい公園(安来市)</p> <p>商談会 とき:3月23日(木) 会場:松江テルサ 参加企業:11社 招致バイヤー:6社 商談件数:37</p> <p>○圏域外マルシェ開催、協力事業 ・米子グランマルシェ2022(10/29)</p>	<p>○圏域内マルシェ開催及び商談会 マルシェ とき:9月18日(月・祝) 会場:米子コンベンションセンター前(米子市)</p> <p>商談会 とき:9月19日(火) 会場:米子市文化ホール 参加企業:19社 招致バイヤー:16社 商談件数:100件</p> <p>○圏域外マルシェ開催、協力事業 ・「半島デリシャス」×「山陰いいものマルシェ」(11/23~26) 参加企業14社</p>	<p>○圏域内マルシェ開催及び商談会 ○圏域外マルシェ開催【R5以降 圏域内マルシェ開催市】 R6出雲、R7松江</p> <p>マルシェ とき:11月24日(日) 会場:だんだんトマトアリーナ(出雲市)</p> <p>商談会 とき:11月25日(月) 会場:調整中</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4		R5		R6		備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	予算	予算	
事業費	7,500	7,500		7,500	7,500		実行委員会の予算財源は、市長会からの負担金及び出店者負担金
財源内訳							
国・県支出金	0	0		0	0		
補助金	0	0		0	0		
特定負担金	0	0		0	0		
一般負担金	7,500	7,500		7,500	7,500		
歳入合計	7,500	7,500		7,500	7,500		

課題	<p>ビジネスマッチングへ参加する企業の増加や、圏域内出店者の拡大を図る必要がある 今後のいいものマルシェの方向性を検討する必要がある。</p>	方向性	<p>圏域内マルシェについては、R2年度から、再度5市一巡開催すること確認している(R元年度)。左記課題も考慮しながら、今後の方向性を検討する。</p>
----	---	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	活力にあふれる圏域づくり
	基本目標	・力強い産業圏域の形成 ・地産外商による稼ぐ圏域の実現
	主な取組み	圏域内の製造業の集積を活かした産業振興と広域的な産業間連携
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展
	KPI	

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
		実行委員会		
		※担当者会、5者協議、幹事会を経て		
		マルシェ開催		

本事業の経過及び関連する主要データ										
【本事業の経過】 山陰いいものマルシェプロジェクト実行委員会 H27年4月3日設立										
【実行委員会 構成】 ○中海・宍道湖・大山圏域市長会(各市長)、○中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会(各商工会議所・商工会会頭)、 ○西日本旅客鉄道(株)(米子支社長、山陰地域振興本部 課長)、 ○山陰中央新報社(代表取締役社長、営業局担当局長兼地域振興部長)、 ○日本貿易振興機構(ジェトロ)松江・鳥取貿易情報センター(各センター所長)										
【幹事会 構成】 ○中海・宍道湖・大山圏域市長会(各市産業振興担当課長)、 ○中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会(各商工会議所・商工会課長)、○JR西日本(山陰地域振興本部 課長)、 ○ジェトロ島根・鳥取(各センター所長)、○山陰中央新報社(営業局担当局長兼地域振興部長)										
【事務局】 松江商工会議所										
【開催状況】										
										(円)
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	
市長会事業費	25,000,000	22,000,000	9,800,000	9,800,000	2,748,410	509,487	2,754,524	7,500,000	7,500,000	
うち交付金対象事業費	22,000,000	22,000,000	4,700,000	—	—	—	—	—	—	
補助率	10/10	10/10	1/2	—	—	—	—	—	—	
交付金名称	地方創生先行型交付金	地方創生加速化交付金	地方創生推進交付金	—	—	—	—	—	—	
うち松江市追加負担費	—	—	—	5,000,000	1,832,273	—	—	—	—	
ブロック協	500,000	250,000	150,000	150,000	0	—	—	—	—	
諸収入	710,247	1,035,083	606,378	901,513	228,182	7	0	0	0	
前期からの繰越金	0	38,155	211,791	41,199	544,078	544,078	0	0	0	
決算額(合計)	26,210,247	23,323,238	10,768,169	10,892,712	3,520,670	1,053,572	2,754,524	7,500,000	7,500,000	
圏域内マルシェ開催市	松江(6月)、境港(12月)	安来(9月)、出雲(3月)	米子(9月)	松江(3月)	松江(3月)	境港(3月)	境港(3月)	安来(12月)	米子(9月)	
出店事業者数	〔松江〕53(うち圏域39)〔境港〕72(うち圏域61)	〔安来〕58(うち圏域50)〔出雲〕76(うち圏域60)	83(うち圏域74)	42(うち圏域33)	開催中止	開催中止	開催中止	30(うち圏域26)	41(うち圏域36)	
来場者数	30,000人(松江2日間)15,000人(境港)	13,000人(安来)20,000人(出雲)	23,000人	24,000人	開催中止	開催中止	開催中止	600人(途中中止)	2,000人(途中中止)	
売上額	5,993千円(松江2日間)5,102千円(境港)	4,647千円(安来)6,255千円(出雲)	4,627千円	4,707千円	開催中止	開催中止	開催中止	897千円(途中中止)	1,749千円(途中中止)	
マルシェ会場への来場バイヤー社数	13社〔松江〕9社〔境港〕	4社〔安来〕14社〔出雲〕	5社	8社	開催中止	開催中止	—	—	8社	
〔マッチング商談会〕商談件数、招致バイヤー社数	開催なし	開催なし〔安来〕76件、4社〔出雲〕	60件、6社	90件、8社	開催中止	開催中止	86件、9社	37件、6社	100件、16社	
〔マッチング商談会〕参加事業者数	開催なし	開催なし〔安来〕28(うち圏域19)〔出雲〕	18(うち圏域14)	25(うち圏域18)	開催中止	開催中止	30(うち圏域20)	11(うち圏域8)	19(うち圏域11)	
※R2年度から再度5市を一巡開催することを、5市で確認。(R元年度)										
※H30年度までは、ブロック協(圏域観光連携事業推進協議会(H30年度解散))からの負担金あり。										
総合戦略推進委員会での評価及び意見										
<p>・費用対効果の問題はどのようなのでしょうか。経済効果がそこそこあれば、やってもいいのかなと思うが。元々あるものを活性化させていく、磨いていくことが意外と相乗効果が高いのではないかなと思う。マルシェが本当にいいものなのか、一般人がどんどん行けるような企画を実行してもらって、ネーミングに英語やフランス語を入れるのはそろそろ止めましょうよ、日本語でやってもいいのかなと思います。(H30意見)</p> <p>・昨年は米子市で開催した。JRさんが絡んでおられるので、米子駅前という議論もあったたが、当時の米子は高島屋、角盤町周辺のにぎわいというのが課題だったので、角盤町周辺で開催した。そうしたら、思いのほか大勢の来場者にびっくりいたしました。米子の場合は単に売り上げとか商談件数にプラスの積極評価では、やはり高島屋周辺は商売を楽しむ所だという定着があるということを確認できたという点で、協議所、高島屋周辺の商店街、米子市も評価をしているのではないかなと思う。それが基で今後高島屋周辺をにぎわいの拠点空間としてやっていく自信、見込みが付いたということが一番の評価だったと思います。(H30意見)</p>										

圏域市長会 主要事業調査書

所属	事業名(細々目名称)
(一社)中海・宍道湖・大山圏域観光局	外国人誘客対策事業 クルーズ客船寄港時のおもてなし

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	クルーズ船旅客者の満足度を高め、外国人観光客の圏域周遊促進と旅行消費を拡大し、圏域経済の活性化を図る。	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	目標(何を達成するのか)	クルーズ船寄港数	6	27	30	30
	クルーズ船寄港数、外国人観光客数の増					

事業内容	<p>1 クルーズ船旅客者、クルーに対する観光案内業務・交流イベントの実施 民間事業者へ委託し実施する 境夢みなとターミナル等でクルーズ船寄港にあわせ、観光案内と交流イベント(伝統芸能披露や日本文化体験等)を実施する。</p> <p>2 外国語観光案内業務ができる通訳ボランティアの募集・育成を図る。 登録者数60名、対応可能言語・・・英語、韓国語、中国語、その他</p>
------	--

	R4実績	R5実績	R6計画
事業の成果及び実績	<p>1 観光案内業務・交流イベントの実施 クルーズ船寄港数 6回 観光案内業務 6回 交流イベント 6回</p> <p>2 観光案内通訳ボランティアの募集・運営 圏域観光協会会議に委託し実施 →外国船籍の寄港がなかったため、未実施</p>	<p>1 観光案内業務・交流イベントの実施 クルーズ船寄港数 27回 観光案内業務 27回 交流イベント 27回</p> <p>2 観光案内通訳ボランティアの募集・運営 圏域観光協会会議に委託し実施</p>	<p>1 観光案内業務・交流イベントの実施 クルーズ船寄港数 30回 観光案内業務 30回 交流イベント 30回</p> <p>2 観光案内通訳ボランティアの募集・運営 圏域観光協会会議に委託し実施</p>

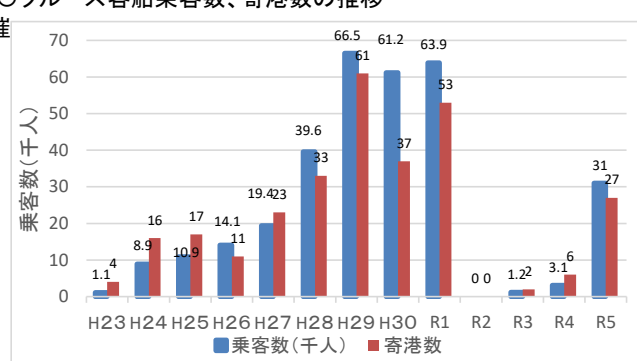
歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4	R5		R6	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	2,195	1,639	4,139	3,810	5,586
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0
	観光局自主財源	0	0	2,500	0
	特定負担金	0	0	0	0
	市長会負担金	2,195	1,639	1,639	3,810
歳入合計	2,195	1,639	4,139	3,810	5,586

課題	<p>・コロナ禍は、クルーズ船の寄港が著しく少なくなっていたが、令和4年度末から外国船も寄港が再開した。寄港数は回復傾向にあるものの、コロナ禍の影響で廃業した事業者もあり、コロナ禍前の水準には戻っていない。おもてなしにかかる費用が増加していることから、おもてなしの内容についても検討が必要。</p>	方向性	<p>境港への寄港に対する魅力を向上させ、寄港数の増加及び境港が乗船港となるよう継続実施する。 インバウンドの回復に備え、境港管理組合等と連携し、受入環境の整備を継続して実施する。</p>
----	---	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	訪ねてみたい圏域づくり
	基本目標	インバウンド観光の推進
	主な取組み	外国人誘客対策
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	国内及びインバウンド観光の推進
	KPI	クルーズ船寄港数

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	随時	観光案内、交流イベントの実施		

本事業の経過及び関連する主要データ

【本事業の経過】	【主要データ】
<p>H24年 中海・宍道湖・大山圏域市長会設立 クルーズシンポジウムin境港 境港管理組合と共催</p> <p>H25年 「クルーズ客船おもてなし事業」を開始 以後、現在観光局に引き継がれ継続実施</p> <p>R2年 境夢みなとターミナル供用開始</p> <p>R4年 国際クルーズ受入再開(11月 国交省)</p>	<p>○クルーズ客船乗客数、寄港数の推移</p> 

令和5年度寄港実績

寄港日	船名	乗客数(人)	乗客の主な国籍	寄港日	船名	乗客数(人)	乗客の主な国籍
4月6日	ル・ソレアル	264	欧米	7月14日	ダイヤモンド・プリンセス	2,706	日本/欧米
4月9日	アザマラ・クレスト	702	欧米	8月9日	バシフィック・ワールド	2,010	日本
4月10日	にっぽん丸	532	日本	8月21日	MSCベリッシマ	4,418	日本
4月16日	ダイヤモンド・プリンセス	2,706	日本/欧米	9月4日	ナショナルジオグラフィック・レゾリューション	126	欧米
4月25日	ル・ソレアル	264	欧米	9月8日	ナショナルジオグラフィック・レゾリューション	126	欧米
4月25日	ヘリテイジ・アドベンチャラー	140	欧米	9月17日	飛鳥II	872	日本
4月30日	ヘリテイジ・アドベンチャラー	140	欧米	10月16日	飛鳥II	872	日本
5月6日	ル・ソレアル	264	欧米	10月19日	ダイヤモンド・プリンセス	2,706	日本/欧米
5月8日	ル・ソレアル	264	欧米	10月19日	コスタセレーナ	2,930	韓国
5月24日	ヘリテイジ・アドベンチャラー	140	欧米	10月22日	ウエステルダム	1,964	欧米
6月7日	ヘリテイジ・アドベンチャラー	140	欧米	11月5日	ダイヤモンド・プリンセス	2,706	日本/欧米
6月11日	シーニック・エクリプス	228	欧米	11月23日	ダイヤモンド・プリンセス	2,706	日本/欧米
6月25日	MSCベリッシマ	4,418	日本	3月25日	アザマラ・ジャーニー	690	欧米
7月7日	MSCベリッシマ	4,418	日本				

総合戦略推進委員会での評価及び意見

【意見】	<p>・外国客船は、今後ワクチンパスポートの義務付けなど、防疫体制をしっかりと取ったうえで世界を周遊すると思うので、ぜひ、客船の誘致を境港管理組合などと検討していただきたい。(R3年度)</p> <p>・受け入れの体制づくりについては、検疫部署と具体的な話を詰めたうえで、実態に即した計画(ガイドライン)を作成する必要がある。(R3年度)</p> <p>・外国からのクルーズ船事業について、数千人規模の大型船のほか、富裕層が世界を周遊する小型クルーズ船の誘致も境港管理組合と連携して検討してもよい。(R4年度)</p>
------	---

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
(一社)中海・宍道湖・大山圏域観光局	01外国人誘客対策事業 圏域インバウンドプロモーション

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	国内旅行市場に大きな成長が見られない中、訪日外国人旅行客誘致を強化し、圏域経済の活性化を図る。	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	目標(何を達成するのか)	訪日外国人宿泊数(人)	11,082	71,076	459,000	459,000
	訪日外国人宿泊数、観光消費額の増	観光消費額(億円)	700	846	1,160	1,160

事業内容	<p>圏域全体を一体的に発信していく利点をいかし重点ターゲット国を定め、JNTO、山陰インバウンド機構と役割分担し個別に有効なプロモーションを実施していく。 (重点ターゲット国:韓国、台湾、香港、中国、欧米豪「圏域インバウンド総合計画」「圏域インバウンド実施計画」)</p> <p>1 欧米豪他・・・JNTOを活用したプロモーション事業、WEB、SNSを活用した情報発信 2 上海・香港・・・商談会等の現地プロモーション事業、現地メディアでの情報発信 3 その他・・・観光体験コンテンツを活用したプロモーション、英語版ホームページ、訪日旅行サイトによる情報発信</p>
------	--

	R4実績	R5実績	R6計画
事業の成果及び実績	<p>1 プロモーション事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VISIT JAPANラベル&MICEマートへの出展 ・英語版ホームページの充実 ・建国花市圏域観光ブースの出展 <p>2台湾向けプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪日旅行サイト「JAPANKURU」での情報発信 ・台湾現地商談会(観光庁補助) 日本側:34団体 台湾側 63社 ・台湾向けオンラインツアー(観光庁補助) <ul style="list-style-type: none"> ■広域周遊ルート(4件) ※内1コースを商品化し販売 ■「縁結び」体験コンテンツ作成(5施設6件) ※販売開始に向け調整中 <p>3 WEB等を活用した情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS(Facebook,Instagram) 情報発信 	<p>1 プロモーション事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VISIT JAPANラベル&MICEマートへの出展 ・英語版ホームページの充実 ・訪日旅行サイトによる情報発信 <p>2東アジア向けプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上海または香港現地商談会(観光庁補助) →中止 ・縁結びをテーマにした上海または香港向け体験コンテンツの作成(観光庁補助) <p>3 WEB等を活用した情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS(Facebook,Instagram) 情報発信 ・wechatを活用した情報発信 	<p>プロモーション事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 1欧米豪向けプロモーション ・JNTO賛助金 ・SNS(Facebook,Instagram)運用委託 ・山陰まんなかの自然・歴史を活用したアドベンチャーツーリズム造成・流通環境整備事業(観光庁補助) <p>2東アジア向けプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪日外国人向けサイト等メディアを活用した情報発信 ・海外旅行会社への誘客アプローチ(FAMツアー等) ・【韓国】韓国現地商談会(観光庁補助) ・【台湾】一畑グループ台湾事務所による現地情報発信

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4	R5		R6	備考	
	決算	当初予算	補正・流用後	決算		予算
事業費	19,467	23,700	25,600	22,019	24,970	
財源内訳	国・県支出金	6,270	5,750	5,750	5,000	13,920
	観光局自主財源	0	2,100	4,000	696	3,100
	特定負担金	0	0	0	0	
	市長会負担金	13,197	15,850	15,850	16,323	7,950
歳入合計	19,467	23,700	25,600	22,019	24,970	

課題	<p>コロナ禍が明け、国内へのインバウンドは大幅に回復しているが、地方への誘客はまだ回復していない状況。当圏域へのインバウンドが回復した時に、重点を絞り継続しプロモーションを実施していく必要がある。</p>	方向性	<p>欧米豪については、ターゲットを絞って、確実に来訪者数を伸ばしていく取組を実施する。航空路線が復活してきている東アジア圏に向けて、誘客を促進する取組を実施していく。</p>
----	---	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	訪ねてみたい圏域づくり
	基本目標	インバウンド観光の推進
	主な取組み	外国人誘客対策
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	国内及びインバウンド観光の推進
	KPI	訪日外国人宿泊数

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	5月～3月	自然・歴史を活用したアドベンチャーツーリズム造成・流		
	7月～12月	現地商談会		
	年間	SNS(Facebook,Instagram) 情報発信		

本事業の経過及び関連する主要データ																					
<p>【本事業の経過】</p> <p>平成24年4月 中海・宍道湖・大山圏域市長会設立</p> <p>平成26年2月 圏域市長会・ブロック経済協合同研修会「県域におけるインバウンド強化について提言」</p> <p>平成26年6月 インバウンド検討委員会の設立(以後7回開催)</p> <p>平成27年2月 中海・宍道湖・大山圏域インバウンド総合計画策定</p> <p>平成28年4月 山陰インバウンド機構設立</p> <p>平成28年6月 中海・宍道湖・大山圏域インバウンド実施計画策定</p> <p>平成28年8月 圏域DMO設立について合意(圏域市長会・ブロック協)</p> <p>平成29年7月 中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構設立</p> <p>平成31年4月 (一社)中海・宍道湖・大山圏域観光局設立(法人化)</p> <p>令和元年8月 日本版DMO登録(地域連携DMO)</p> <p>令和4年9月 日本版DMO登録更新(地域連携DMO)</p>	<p>(圏域からの国際路線の状況)</p> <p>平成13年 米子—ソウル定期便就航</p> <p>平成21年 DBSフェリー就航</p> <p>平成28年 米子—香港定期便就航</p> <p>令和元年 米子—ソウル定期便運休</p> <p>令和2年 米子—上海定期便就航(1月)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で香港便、上海便運休(2月)</p> <p>DBSフェリー航路廃止(4月)</p> <p>令和5年 米子—ソウル定期便再開(10月)</p> <p>令和6年 イースタン・ドリーム号就航(8月)</p> <p>米子—香港定期便再開予定(10月)</p> <p>令和7年 米子—台湾定期便再開予定(1月)</p>																				
<p>【主要データ】</p> <p>圏域内インバウンドの状況</p> <p>(単位:人)</p>	<p>参考R6</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>圏域内宿泊者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1月</td><td>4,671</td></tr> <tr><td>2月</td><td>3,864</td></tr> <tr><td>3月</td><td>4,381</td></tr> <tr><td>4月</td><td>5,244</td></tr> <tr><td>5月</td><td>7,949</td></tr> <tr><td>6月</td><td>2,149</td></tr> <tr><td>7月</td><td>6,667</td></tr> <tr><td>8月</td><td>4,452</td></tr> <tr><td>合計</td><td>39,377</td></tr> </tbody> </table> <p>※出展:観光予報プラットフォーム</p>	月	圏域内宿泊者数	1月	4,671	2月	3,864	3月	4,381	4月	5,244	5月	7,949	6月	2,149	7月	6,667	8月	4,452	合計	39,377
月	圏域内宿泊者数																				
1月	4,671																				
2月	3,864																				
3月	4,381																				
4月	5,244																				
5月	7,949																				
6月	2,149																				
7月	6,667																				
8月	4,452																				
合計	39,377																				

総合戦略推進委員会での評価及び意見	
【評価】	地方創生に効果があった。
【意見】	外国人観光客に対して、まだ展望が見えない中ではあるが、今から準備しておく必要がある。戦略的に誘客対象国を絞ることは大切なことであると思う。(R3年度)

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
(一社)中海・大湖・大山 圏域観光局	02国内誘客対策事業 国内広域観光プロモーション

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域全体を一体的に発信していく利点をいかし、国内に広域的に情報発信し圏域への誘客を促進し圏域経済の活性化を図る。	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	目標(何を達成するのか)	圏域宿泊客数(千人)	2,975	3,335	4,330	4,330
	国内旅行宿泊数、観光消費額の増	観光消費額(億円)	700	846	1,160	1,160

事業内容	<p>国内旅行市場も回復してきており、圏域への訪問も増えていることから、広域的に多様な情報を発信して誘客を促進し、圏域への経済効果を高める。</p> <p>1 WEB、SNSを活用したプロモーション</p> <p>※新型コロナウイルスの感染状況、海外情勢、観光需要の動向を見据えて弾力的な事業展開を図る。</p>
------	--

	R4実績	R5実績	R6計画
事業の成果及び実績	<p>【国内広域観光プロモーション】</p> <p>1 WEB、SNSを活用したプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語版ホームページの拡充 Instagramを活用した情報発信 まっふる山陰'23での記事掲載 BSSラジオ「中四国ライブネット」での情報発信 	<p>【国内広域観光プロモーション】</p> <p>1 WEB、SNSを活用したプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語版ホームページの管理・運営 公式アンバサダーによるブログ更新及びセレクトリップへのスポット追加と、各SNSでの情報発信 WEB媒体もある雑誌等への記事掲載 	<p>【国内広域観光プロモーション】</p> <p>1 WEB、SNSを活用したプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語版ホームページの管理・運用 公式アンバサダーによるブログ更新及びセレクトリップへのスポット追加と、各SNSでの情報発信 X(Twitter)を活用したキャンペーン

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4		R5		R6	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	予算	
事業費	6,561	4,000		3,002	3,511	
財源内訳	国・県支出金	0	0		0	
	観光局自主財源	0	0		0	
	特定負担金	0	0		0	
	市長会負担金	6,561	4,000		3,002	3,511
歳入合計	6,561	4,000		3,002	3,511	

課題	<p>コロナ禍が明け、国内旅行は回復傾向にある。今後は一部スポットだけへの来訪や、それによるオーバーツーリズムが発生しないよう、圏域周遊促進のための情報発信を行うほか、旅行消費拡大の取り組みが必要。</p>	方向性	<p>圏域内周遊を促進する情報発信をしていくほか、消費拡大を狙う物産PRを重点的に実施していく。</p>
----	---	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	訪ねてみたい圏域づくり
	基本目標	・観光地域づくりの促進 ・圏域観光の魅力向上
	主な取組み	国内誘客対策
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	国内およびインバウンド観光の推進
	KPI	観光宿泊数

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	年間	日本語版ホームページの管理・運用		
	6月～10月	X(Twitter)を活用したキャンペーン		

本事業の経過及び関連する主要データ

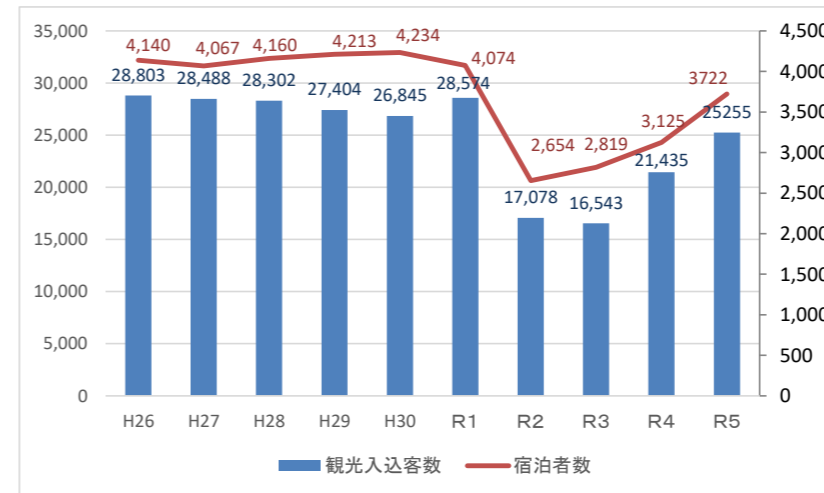
【本事業の経過】(近年の観光に係る事業等の変遷)

平成25年 出雲大社大遷宮	令和3年 FDA神戸線運休
平成25年 松江自動車道全線開通	令和5年 FDA静岡線、仙台線運休予定(1月)
平成27年 FDA名古屋線運航開始	令和6年 FDA名古屋線運行開始、静岡線再開(3月)
平成27年 松江城国宝指定	
平成28年 FDA名古屋線一日2便に増便	
平成30年 FDA静岡空港線、仙台空港線運航開始	
平成30年 山陰デスティネーションキャンペーン	
平成30年 大山開山1300年	
平成30年 不昧公没後200年祭	
平成30年 水木しげるロードリニューアルオープン	
令和元年 FDA神戸線運航開始	

【主要データ】

圏域内旅行の状況(インバウンドを含む)

(単位:千人)



令和5年観光客宿泊客数
3,808,904人

出典:観光予報プラットフォーム

総合戦略推進委員会での評価及び意見

【評価】

【意見】

・観光事業に大きな力を割いている。インバウンドの見通しは立たないが、国内は人が動き始めている。コロナ禍の中で対策を講じつつ、具体的なものを積み上げて、何か動きを作っていかなければならない。(R4年度)

圏域市長会 主要事業調査

所属	事業名(細々目名称)
(一社)中海・宍道湖・大山圏域観光局	02国内誘客対策事業 人口集積地(発地型)誘客プロモーション事業

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域全体を一体的に発信していく利点をいかし、人口集積地である都市部に対しプロモーションを実施し、誘客を促進し圏域経済の活性化を図る。	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	目標(何を達成するのか)	圏域宿泊客数(千人)	2,975	3,335	4,330	4,330
	国内旅行宿泊数、観光消費額の増	観光消費額(億円)	700	846	1,160	1,160

事業内容	人口集中地域である大都市部をターゲットとし、圏域の魅力や観光資源を積極的に情報発信し、圏域の認知度向上、観光誘客を図る。 1 圏域への基幹交通機関と連携した事業 (JR、航空路線) 2 ラジオを活用した情報発信
------	---

	R4実績	R5実績	R6計画
事業の成果及び実績	【人口集積地(発地型)誘客プロモーション】 1 基幹交通機関と連携した事業 ・JR西と連携した事業 ・航空機と連携した事業 FDA路線と連携 出雲空港、米子空港と連携(冬季対策補助) 2 お城を活用したプロモーション 大阪お城フェス2022への出展	【人口集積地(発地型)誘客プロモーション】 1 基幹交通機関と連携した事業 ・JR西と連携した事業 ・航空機と連携した事業 FDA路線と連携 出雲空港、米子空港と連携(冬季対策補助) 2 WEB以外を活用したプロモーション ・ラジオ番組を活用した情報発信 ・サービスエリアや雑誌媒体等を活用した情報発信 3 足立美術館展を起点とした北海道プロモーション	【人口集積地(発地型)誘客プロモーション】 1 基幹交通機関と連携した事業 ・JRと連携した事業 ・圏域発着航空便の利用促進事業 FDA路線と連携した旅行商談会(教育・一般団体旅行誘致) 出雲空港、米子空港と連携(冬季対策補助) 2 ラジオ番組を活用した情報発信 ・中四国ライブネットでの圏域PR

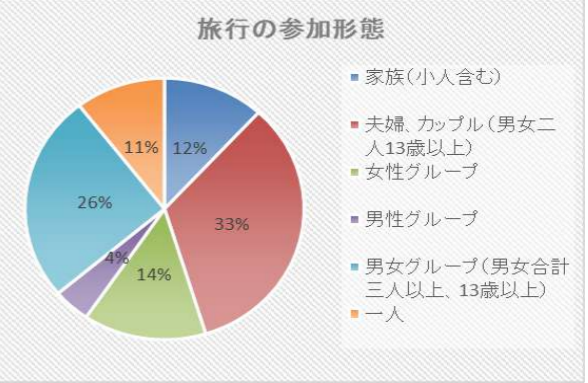
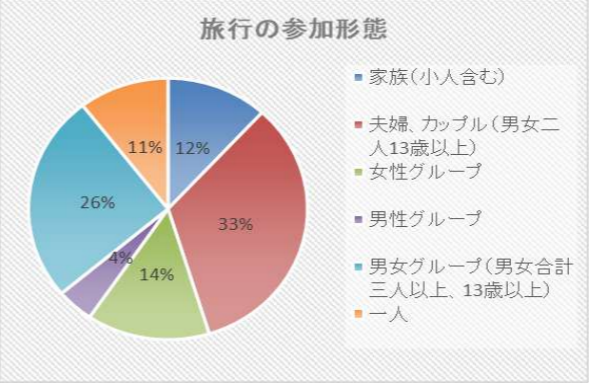
歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4		R5		R6	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	予算	
事業費	11,098	8,400		6,755	5,401	
財源内訳	国・県支出金	5,000	0		0	
	観光局自主財源	0	0		0	
	特定負担金	0	0		0	
	市長会負担金	6,098	8,400		6,755	5,401
歳入合計	11,098	8,400		6,755	5,401	

課題	コロナ禍が明け、国内旅行は徐々に回復しているものの、旅行熱の高まりが落ち着いた後の来訪者数の維持・向上に不安を抱えている。人口集積地での効率的な情報発信と、安定した観光客数の確保に向けた取組が必要。	方向性	人口集積地での効率的な情報発信を実施するほか、閑散期の教育・一般の団体旅行誘致など、コロナ禍明けの旅行需要が下火になった際にも、安定した観光客数の確保に向けた取組を実施する。
----	---	-----	---

圏域振興ビジョン	基本方向	訪ねてみたい圏域づくり
	基本目標	・観光地域づくりの促進 ・圏域観光の魅力向上
	主な取組み	国内誘客対策
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	国内およびインバウンド観光の推進
	KPI	観光宿泊数

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	6月～10月	FDAと連携した旅行商談会		
	12月～3月	出雲縁結び空港及び米子鬼太郎空港冬季利用促進事業		
	5月～6月	中四国ライブネット		

本事業の経過及び関連する主要データ		宿泊実績居住地トップ10 (R5.1～R5.12)																																	
【本事業の経過】(近年の観光に係る事業等の変遷) 平成25年 出雲大社大遷宮 平成25年 松江自動車道全線開通 平成27年 FDA名古屋線運航開始 平成27年 松江城国宝指定 平成28年 FDA名古屋線一日2便に増便 平成30年 FDA静岡空港線、仙台空港線運航開始(令和5年運休予定) 平成30年 山陰デスティネーションキャンペーン 平成30年 大山開山1300年 平成30年 不昧公没後200年祭 平成30年 水木しげるロードリニューアルオープン 令和元年 FDA神戸線運航開始(令和3年運休) 令和5年 FDA静岡線、仙台線運休(1月) 令和6年 FDA名古屋線一日3便に増便、静岡線再開(3月)		<table border="1"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>都道府県</th> <th>人数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1位</td><td>東京都</td><td>490,235</td></tr> <tr><td>2位</td><td>大阪府</td><td>405,134</td></tr> <tr><td>3位</td><td>神奈川県</td><td>309,791</td></tr> <tr><td>4位</td><td>広島県</td><td>307,486</td></tr> <tr><td>5位</td><td>兵庫県</td><td>296,687</td></tr> <tr><td>6位</td><td>埼玉県</td><td>240,954</td></tr> <tr><td>7位</td><td>愛知県</td><td>206,067</td></tr> <tr><td>8位</td><td>千葉県</td><td>181,229</td></tr> <tr><td>9位</td><td>岡山県</td><td>177,022</td></tr> <tr><td>10位</td><td>島根県</td><td>131,925</td></tr> </tbody> </table>	順位	都道府県	人数(人)	1位	東京都	490,235	2位	大阪府	405,134	3位	神奈川県	309,791	4位	広島県	307,486	5位	兵庫県	296,687	6位	埼玉県	240,954	7位	愛知県	206,067	8位	千葉県	181,229	9位	岡山県	177,022	10位	島根県	131,925
順位	都道府県	人数(人)																																	
1位	東京都	490,235																																	
2位	大阪府	405,134																																	
3位	神奈川県	309,791																																	
4位	広島県	307,486																																	
5位	兵庫県	296,687																																	
6位	埼玉県	240,954																																	
7位	愛知県	206,067																																	
8位	千葉県	181,229																																	
9位	岡山県	177,022																																	
10位	島根県	131,925																																	



出典:観光予報プラットフォーム

総合戦略推進委員会での評価及び意見	
【評価】	
【意見】	

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
(一社)中海・大湖・大山 圏域観光局	02国内誘客対策事業 圏域観光再生支援プログラム

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	新型コロナウイルス感染症の影響により打撃を受けた圏域観光産業の事業継続、雇用維持を図る。	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	目標(何を達成するのか)	圏域宿泊客数(千人)	2,975	3,335	4,330	4,330
	国内旅行宿泊数、観光消費額の増	観光消費額(億円)	700	846	1,160	1,160

事業内容	<p>令和2年度補正予算「アフターコロナ緊急対策事業」、令和3年度「圏域観光再生支援プログラム」に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている観光産業の再生を支援するとともに、旅行需要回復期に合わせた継続的な情報発信と受入環境の整備に取り組む。</p> <p>1 圏域周遊を促進するキャンペーン 2 圏域素材を組み合わせたツアー造成事業(観光庁補助)</p>
------	---

	R4実績	R5実績	R6計画
事業の成果及び実績	<p>1 周遊促進キャンペーン ・鉄道をテーマとしたInstagramハッシュタグキャンペーン ・日帰り入浴施設湯めぐりキャンペーン第4弾</p> <p>2 大学生が考案したツアープラン事業 大阪お城フェス2022にて城学を実施</p> <p>3 圏域素材を組み合わせたオンラインツアー造成事業(観光庁補助) デジタルを活用し、圏域の有効な素材を組み合わせたオンラインツアーの造成</p>	<p>1 周遊促進キャンペーン ・圏域の素材を生かした周遊促進キャンペーン</p> <p>2 圏域の有効な素材を組み合わせたツアーの造成(観光庁補助)</p>	令和5年度までで事業廃止

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4		R5		R6	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	予算	
事業費	10,215	6,500		6,503	0	R5観光庁補助 ・圏域素材を組み合わせたツアー造成
国・県支出金	2,499	1,800		1,800		
観光局自主財源	0	0		3		
特定負担金	0	0		0		
市長会負担金	7,716	4,700		4,700		
歳入合計	10,215	6,500		6,503	0	

課題	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、国内旅行者数が激減し、圏域内宿泊業も打撃を受けている。観光産業活性化に向け、地元企業等の受け入れ体制の整備、観光資源の磨き上げを促進し、圏域周遊促進及び旅行消費拡大の取り組みを強化して必要がある。</p>	方向性	<p>新型コロナウイルス感染症拡大状況の推移、観光需要の動向を見極めていく。</p>
----	--	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	訪ねてみたい圏域づくり
	基本目標	・観光地域づくりの促進 ・圏域観光の魅力向上
	主な取組み	国内誘客対策
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	国内およびインバウンド観光の推進
	KPI	

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容

本事業の経過及び関連する主要データ	
<p>圏域素材を組み合わせたオンラインツアーの造成事業 ※観光庁補助事業 令和5年度</p> <p>①圏域内の日本一、発祥といわれる資源とそれに携わる人を連携させた商品造成・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ■オンラインツアー3件造成(販売開始後…42名参加、販売額66,000円) ■リアルツアー3件造成(販売開始後…最少催行人数に達せず)※但し、申込者9名、販売相当額765,000円 	
【主要データ】	
<p>周遊促進キャンペーン</p> <p>#ときめく山陰まんなかキャンペーン 実施期間 令和5年9月28日～令和6年2月7日 応募数 1,495件 フォロワー増加数 4,272人</p> <p>(過去のハッシュタグキャンペーン)</p> <p>令和4年度</p> <p>○ 鉄道をテーマとしたInstagramハッシュタグキャンペーン ○ 湯めぐりスタンプラリー</p> <p>実施期間 令和4年11月18日～令和5年3月5日 実施期間 令和4年12月24日～令和5年3月6日 応募数 1,686件 応募数 470人 参加施設数 27施設</p> <p>令和3年度(第3弾) 令和3年度(第3弾)</p> <p>テーマ モノ(食、景色、花、動物、器等)と 実施期間 令和3年12月25日～(一時中断) コト(体験、アクティビティ等) ～令和4年4月25日</p> <p>実施期間 令和3年11月1日～令和4年1月15日 応募数 381人 応募数 1,859件 参加施設数 31施設</p>	
総合戦略推進委員会での評価及び意見	
【評価】	
【意見】	<p>・圏域にはまだまだ知られていない魅力がたくさん残っている。VRやARを駆使した映像コンテンツの活用は、観光PRのひとつとして有効である。テレワークなどで自宅にいながら、圏域の魅力を知ってもらうことは、アフターコロナにおける助走として効いてくる。(R3年度)</p>

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
(一社)中海・穴道湖・大山圏域観光局	02圏域観光の魅力アップ事業 圏域内周遊促進及び受入環境充実事業

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域内の周遊性を高めるとともに観光客受入体制の充実をはかり観光消費額の増加を図る。	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	目標(何を達成するのか)	圏域宿泊客数(千人)	2,975	3,335	4,330	4,330
	国内旅行宿泊数、観光消費額の増	観光消費額(億円)	700	846	1,160	1,160

事業内容	<p>地域連携DMOの役割である「稼げる圏域づくり」をめざし、圏域観光の魅力充実させ、国内外から圏域へ来訪する観光客の受け入れの充実を図るなど、リピーターの確保に繋がる取組を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 外国人観光客受入環境整備の実施 各種イベント時の広告宣伝及びノベルティ・パンフレット作成等 周遊促進キャンペーンの実施 観光関連データを活用した周遊観光促進
------	--

	R4実績	R5実績	R6計画
事業の成果及び実績	<ol style="list-style-type: none"> 外国人観光客受入環境整備 ・表示物多言語化支援 ・観光案内所ネットワーク化研修会 ・キャッシュレス化、免税店拡大研修会 各種事業との連携及びノベルティ・パンフレット作成等 長期滞在型旅行商品造成事業(観光庁補助) 圏域での宿泊、滞在日数の増加を目的とした商品造成 過年度事業項目の磨き上げ、販売促進 ・クラフトツーリズム誘客推進 ・温泉ワーケーション 	<ol style="list-style-type: none"> 外国人観光客受入環境整備 ・表示物多言語化支援 ・観光案内所ネットワーク化・コンシェルジュ育成 ・キャッシュレス化、免税店拡大研修会 各種事業との連携及びノベルティ・パンフレット作成等 長期滞在型旅行商品造成事業(観光庁補助) 圏域での宿泊、滞在日数の増加を目的とした商品造成 過年度事業項目の磨き上げ、販売促進 	<ol style="list-style-type: none"> 各種イベント時の広告宣伝及びノベルティ・パンフレット作成等 ・美保基地航空祭等イベント時の出展 ・ノベルティ・パンフレットの作成 周遊促進キャンペーンの実施 ・うんばく三城やレンタカーの活用 観光関連データを活用した周遊観光促進 ・観光予約プラットフォームの活用 ・圏域センサーデータ活用のためのプラットフォーム加入費

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4	R5		R6	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	11,098	20,310	22,090	15,358	8,812
財源内訳	国・県支出金	5,000	9,680	9,680	3,600
	観光局自主財源	0	240	2,020	1,368
	特定負担金	0	0	0	0
	市長会負担金	6,098	10,390	10,390	10,390
歳入合計	11,098	20,310	22,090	15,358	8,812

課題	<p>いよいよインバウンドが回復していくことから、事業者と連携して受入環境整備を実施していく必要がある。また、コロナ禍が明け、イベントが再開されていることから、圏域内外へのPRの機会を活用していく必要があるほか、観光データの活用にも力を入れていく必要がある。</p>	方向性	<p>インバウンドの回復に向けた受入環境整備を実施するほか、イベントの活用や観光データを活用した取組を実施する。</p>
----	---	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	訪ねてみたい圏域づくり
	基本目標	・観光地域づくりの促進 ・圏域観光の魅力向上
	主な取組み	圏域観光の魅力アップ
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	国内及びインバウンド観光の推進
	KPI	観光宿泊数

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	6月～12月	外国人観光客受入環境整備の実施		
	随時	各種イベント時の広告宣伝及びノベルティ・パンフレット作成		
	8月～3月	周遊促進キャンペーン		
	年間	観光関連データを活用した周遊観光促進		

本事業の経過及び関連する主要データ	
【本事業の経過】	
<p>●交流促進コンシェルジュ育成研修 第1回 令和5年8月22日 米子会場 場所 米子コンベンションセンター 第2回 令和5年10月24日 場所 米子コンベンションセンター 第3回 令和5年12月19日 場所 松江テルサ</p> <p>3回の合計参加者 78名</p>	<p>●長期滞在型旅行商品造成事業 ※観光庁補助 令和5年度 4泊5日の日程で圏域を「第2のふるさと」として感じてもらえるよう、地元の人を絡めた旅行商品の造成・販売</p> <p>■日本人向け旅行商品 5件(国内旅行者により販売中) ■外国人向け旅行商品 2件(国内旅行者により販売中)</p>
○居住地別宿泊日数(R5.1～R5.12)	
○居住地別宿泊日数(R5.1～R5.12)	
居住国	宿泊日数
	1泊 2泊 3泊以上 合計
香港	10,759 4,304 207 15,270
台湾	7,279 3,294 2,828 13,401
韓国	1,473 3,852 860 6,185
アメリカ	2,281 1,874 1,463 5,618
中国	1,474 402 603 2,479
スイス	386 706 570 1,662
フランス	808 260 276 1,344
タイ	882 152 0 1,034
ホンコン	52 548 378 978
オーストリア	281 390 185 856
出典:観光予約プラットフォーム	

総合戦略推進委員会での評価及び意見	
【評価】	
【意見】	

圏域市長会 主要事業調書

圏域市長会 主要事業調書	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	自然環境の保全・活用事業 自然の豊かさ・保全に係る普及啓発

※R3年度から、それまでの環境分野の2事業「自然環境学習」「自然環境広報啓発」を統合。

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域の次代を担う子どもたち等へ、自然環境に関する学習機会の提供等を行い、ラムサール条約登録湿地の中海・宍道湖をはじめとする圏域の自然の豊かさや環境保全について普及啓発を図る。	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	目標(何を達成するのか)	設定なし				
	自然環境保全活動通じた郷土愛の醸成					

事業概要	ラムサール条約登録湿地である中海・宍道湖をはじめとする圏域の豊かな自然や環境について、圏域の子どもたち等へ体験を通じて学習できる機会提供や情報発信企画等を行い、圏域の自然環境の普及啓発や保全、また、持続可能な開発目標(SDGs)に向けた取組の推進を図る。
	<p>○子ども探検スクールの開催 圏域の豊かな自然や環境施設等を活用し、自然環境や再生可能エネルギーについて、子どもたちが現地で学習できる機会等を提供する。</p> <p>○自然環境の豊かさや保全等に係る情報発信 各関係団体との連携や各企画での情報発信等により、圏域の自然環境の豊かさや保全等に係る普及啓発を図る。</p>

	R4実績	R5実績	R6計画
事業の成果及び実績	<p>○「子ども探検スクール」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境学習 ・再生可能エネルギー学習 <p>[夏季] 安来、松江、境港</p> <p>[冬季] 中海、宍道湖、米子、出雲</p> <p>○自然環境の豊かさや保全等に係る情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各関係団体の取組との連携 ・普及啓発パネル製作及び展示 ・フォトコンテスト及び作品展 	<p>○「子ども探検スクール」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境学習 ・再生可能エネルギー学習 <p>[夏季] 境港、安来、松江、中海・境水道</p> <p>[冬季] 中海、宍道湖、米子、出雲</p> <p>○自然環境の豊かさや保全等に係る情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各関係団体の取組との連携 ・水中ドローン等の映像による啓発活動 	<p>○「子ども探検スクール」</p> <p>圏域各市、中海・宍道湖を会場に開催 脱炭素、海洋ごみ、水環境、水鳥など</p> <p>○自然環境の豊かさや保全等に係る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各関係団体の取組との連携 ・30by30などの自然環境保全についての学習会を開催

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4	R5		R6	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	1,599	2,250		1,620	1,950
財源内訳	国・県支出金		0	0	0
	補助金		0	0	0
	特定負担金		0	0	0
	一般負担金	1,599	2,250	1,620	1,950
歳入合計	1,599	2,250		1,620	1,950

課題	方向性
県や関連団体の取組とも連携をしながら、カーボンニュートラル等新たな視点も入れ、事業展開を図る必要がある。	子どもに直接届く「体験」等を通じて、圏域の自然環境、再生可能エネルギーを学習する機会創出を図る。

圏域振興ビジョン	基本方向	次代につなぐ圏域づくり
	基本目標	自然環境の保全と活用
	主要施策	自然環境の保全と活用
圏域版第2次総合戦略	主な取組み	恵まれた生活環境を生かした圏域の形成
	主要施策	自然環境の保全と活用
	KPI	

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
		子ども探検スクールの開催		
		各情報発信		

本事業の経過及び関連する主要データ						
【開催状況】自然環境学習						
年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29
経費(円)	462,344	523,069	694,831	768,441	595,900	273,122
開催回数	3回	4回→3回	5回→4回	5回	3回	2回→1回
	・7/27(金) 流入港発 中海 ・7/31(火) 安来港発 中海 ・8/2(木) 湖遊館発 宍道湖	・8/2(金) 米子港発 中海 ・8/6(火) 湖遊館発 宍道湖 ・8/9(金) 流入港発 中海 ・10/26(土) 奥出雲町船通山島上滝コース登山→台風接近により中止	・8/1(金) 安来港発 中海 ・8/6(水) 湖遊館発 宍道湖→雨天中止 ・8/8(金) 流入港発 中海 ・2/21(土) 中海コース ・2/21(土) 宍道湖コース	・7/31(金) 米子港発 中海 ・8/5(水) 湖遊館発 宍道湖 ・8/7(金) 流入港発 中海 ・3/25(金) 宍道湖コース ・3/27(日) 中海コース	・8/10(水) 湖遊館発 宍道湖 ・8/11(木) 安来港発 中海 ・8/25(月) 米子港発 中海	・8/9(水) 松江港発 宍道湖 ・8/10(木) 米子港発 中海→雨天中止
参加者数(人)	・7/27定員120/参加児51保24計75 ・7/31定員70/参加児48保22計70 ・8/2定員70/参加児15保11計26 合計 定員260/参加児114保57計171	・8/2定員50/参加児36保16計52 ・8/6定員50/参加児22保15計37 ・8/9定員50/参加児24保8計32 ・10/26定員40/参加児9保5計14→中止 合計 定員150/参加児82保39計121 ※中止分含めず	・8/1定員40/参加児15保4計19 ・8/6定員40/参加児32保10計42→中止 ・8/8定員40/参加児15保4計19 ・2/21中海定員20/参加児22保14計36 ・2/21宍道湖定員20/参加児22保14計36 ・2/21宍道湖定員20/参加児22保14計36 合計 定員120/参加児78保42計120 ※中止分含めず	・7/31定員40/参加児26保6計32 ・8/5定員40/参加児27保11計38 ・8/7定員40/参加児19保11計30 ・3/25定員30/参加児14保9計23 ・3/27定員30/参加児14保8計22 合計 定員180/参加児100保45計145	・8/10定員40/参加児25保11計36 ・8/11定員40/参加児23保11計34 ・8/29定員35/大人32	・8/9定員40/参加児27保9計36 ・8/10定員40/参加児22保4計26→中止 合計 定員115/参加児48保(大人)54計102
年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
経費(円)	343,904	760,599	0	311,457	1,008,015	
開催回数	2回	5回	0回	2回		
	・7/30(月) 安来港発 中海 ・8/10(水) 松江港発 宍道湖	・8/7(水) 松江港発 宍道湖午前 ・8/7(水) 松江港発 宍道湖午後 ・8/8(木) 鳥根町発 加賀の瀬戸 ・8/20(火) 安来港発 中海 ・8/21(水) 江戸町発 木谷沢渓流	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、スクールは実施せず。	〔夏季〕(工場見学、海洋ごみ学習) ・境港、米子、安来、松江会場 ※新型コロナウイルス感染症拡大のため中止 〔冬季〕(水鳥観察) 出雲、米子会場	〔夏季〕(工場見学、海洋ごみ学習) ・安来、松江、境港 〔冬季〕(工場見学、水鳥観察) ・米子、出雲 ・中海、宍道湖(クルーズ)	〔夏季〕(工場見学、海洋ごみ学習等) ・安来、松江、境港、中海・境水道 〔冬季〕(工場見学、工作、水鳥観察) ・米子、出雲、宍道湖 ・中海(クルーズ)
参加者数(人)	・7/30定員40/参加児22保4計26 ・8/1定員40/参加児30保7計37	・8/7定員30/参加児13 ・8/7定員30/参加児16 ・8/8定員20/参加児18 ・8/20定員30/参加児19 ・8/21定員20/参加児7 合計 定員130/参加児73 ※広報啓発事業での実施分含めず		〔冬季〕 ・12/18AM 出雲 児9 保7 計16 ・12/18AM 出雲 児8 保8 計16 ・12/19 米子 児5 保5 計10 合計 定員60/参加児42 児童22保20 ※中止分含めず	〔夏季〕(工場見学、海洋ごみ学習) ・安来 児19 保17 計36 ・松江 児8 保6 計14 ・境港 児8 保7 計15 〔冬季〕(工場見学、水鳥観察) ・米子 児9 計9 ・出雲 児10 保10 計20 ・中海 児8 保10 計18 ・宍道湖 児10 保10 計20 合計131 児童71保60	〔夏季〕(工場見学、海洋ごみ学習等) ・境港 児14 保13 計27 ・松江 児8 保8 計16 ・松江 児13 保12 計25 〔冬季〕(工場見学、水鳥観察) ・米子 児7 保9 計16 ・出雲 児10 保10 計20 ・中海 児13 保11 計24 ・中海 児9 保9 計18 ・宍道湖 児5 保3 計8 合計169 児童88 保81

総合戦略推進委員会での評価及び意見	
【評価】	
【意見】	・圏域内での産業の付加価値を高め、地産外商を進めていくことが重要。米子市と境港市では脱炭素の先行的な取り組みを行っている。各市が連携して圏域の脱炭素・カーボンニュートラルを取り入れたまちづくりを進めてはどうか。(R4年度)

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域情報の共有・発信 圏域内外へのエリアプロモーション

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域内での一体感醸成、圏域外における知名度向上	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	目標(何を達成するのか)	設定なし				
	改訂した圏域振興ビジョンについて周知を強化する。					

事業内容	圏域振興ビジョンに示す圏域の将来像、ビジョンや市長会の活動の広報周知に努めるとともに、圏域内での一体感醸成、圏域外における認知度向上のための情報発信を行う。
------	--

事業の成果及び実績	R4実績	R5実績	R6計画
	①中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョンの印刷製本 ②ホームページの改修 ③ホームページ等を活用した圏域内外への広報周知	①ホームページ等を活用した圏域内外への広報周知	①ホームページ等を活用した圏域内外への広報周知

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4	R5		R6	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	1,599	180		178	195
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0
	補助金	0	0	0	0
	特定負担金	0	0	0	0
	一般負担金	1,599	180		178
歳入合計	1,599	180		178	195

課題	他のSNS等での情報発信も活用を検討する必要がある。圏域が抱える様々な課題に対して、新たな取り組みを検討する必要がある。	方向性	改訂した振興ビジョンに基づき、市長会事業について、経済界、総合戦略推進委員会等の外部団体の意見も踏まえ、各課長会、幹事会を通じて検討していく。
----	--	-----	---

圏域振興ビジョン	基本方向	・ともに歩む圏域づくり
	基本目標	
圏域版第2次総合戦略	主な取組み	
	主要施策	
	重点プロジェクト	
	KPI	

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	ホームページを活用した情報発信	3月	各市広報紙への市長会通信掲載
	6月	各市広報紙への市長会通信掲載		
	9月	各市広報紙への市長会通信掲載		
	12月	各市広報紙への市長会通信掲載		

本事業の経過及び関連する主要データ	
【本事業の経過】	<p>①中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョンの印刷製本 令和3年度に改訂した、圏域振興ビジョンを印刷製本し、各関係間に配布し振興ビジョンの内容の周知を図った。</p> <p>②ホームページの改修 H24年にホームページを作成してから、小規模な改修は行ったものの、スマートフォンに対応していないなど、抜本的な改修が必要な状況であったことから、R4年度に改修を実施した。</p> <p>③ホームページや市長会通信(各市広報紙に掲載)等を活用した圏域内外への広報周知</p>

総合戦略推進委員会での評価及び意見	
【評価】	
【意見】	・生産年齢人口の減少や労働者の高齢化が進んでいる。この状況を解消するために関係人口の構築や社会インフラの整備が必要。ある程度の水準の住みやすさを感じている、圏域の住みやすさを圏域外にもっと発信すべき。(R4年度)

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域内の連携・交流推進 圏域内の連携・交流推進

事業の目的と目標	目的 (何のために)	数値目標				
	圏域内の行政間や民間団体間、行政と民間団体等の更なる連携と交流を図る。	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	目標 (何を達成するのか)	設定なし				
	行政と民間団体等の更なる連携と交流の推進					

事業内容	<p>圏域で一体となって推進すべき事業の精査、検討を行い、各市、各団体間での連携・交流推進を図るとともに、特定の課題に対して各市間、および各団体との意見交換の場を設けるなど、連携を促進するための仕掛けづくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会との連携推進 ①中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会との意見交換会、合同勉強会の開催 ・圏域内インフラ(中海架橋、米子道(蒜山IC～境港間)、境港出雲道路、境港米子道路、境港整備、新幹線整備など)の整備促進に関する要望活動の実施等、圏域一体となって取り組む事業の推進・強化 ②圏域内連携事業推進(圏域内インフラ整備にかかる要望活動) ③中国横断新幹線(伯備新幹線)整備推進会議に対する負担金 ④8の字ルート整備推進会議への助成金
------	--

	R4実績	R5実績	R6計画
事業の成果及び実績	①ブロック経済協議会との合同勉強会・意見交換会 ②圏域内インフラ整備促進に関する要望 ③中国横断新幹線(伯備新幹線)整備推進会議に対する負担金 ④全国街道交流会議第13回全国大会の開催(市長会発足10周年記念事業) ※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和5年度に延期 ⑤圏域8の字ルート研究会の開催	①ブロック経済協議会との合同勉強会・意見交換会 ②圏域内インフラ整備促進に関する要望 ③中国横断新幹線(伯備新幹線)整備推進会議に対する負担金 ④全国街道交流会議第13回全国大会の開催(市長会発足10周年記念事業) 安来市文化ホール アルテピア ⑤中海・宍道湖8の字ルート整備推進会議の立ち上げ	①ブロック経済協議会との合同勉強会・意見交換会 ②圏域内インフラ整備促進に関する要望 ③中国横断新幹線(伯備新幹線)整備推進会議に対する負担金 ④中海・宍道湖8の字ルート整備推進会議に対する助成金

歳入・歳出の推移(単位:千円)		R4		R5		R6		備考
		決算	当初予算	補正・流用後	決算	予算	予算	
事業費		4,335	6,391	11,490	11,490	6,790		
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0		
	補助金	0	0	0	0	0		
	特定負担金	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450		
	一般負担金	1,885	3,941	9,040	9,040	4,340		
歳入合計		4,335	6,391	11,490	11,490	6,790		

課題	整備促進の機運醸成が高まる、圏域8の字ルート、中国横断新幹線(伯備新幹線)、境港等圏域の交通ネットワークの整備実現に向けた取り組みを継続する必要がある。	方向性	引き続き、圏域のスケールメリットを生かした、要望活動等を実施するほか、整備後のまちづくりについて研究を行い、圏域住民に分かりやすく、インフラ整備の重要性を伝え、更なる機運醸成を図る。
----	--	-----	---

圏域振興ビジョン	基本方向	・活力にあふれる圏域づくり ・ともに歩む圏域づくり
	基本目標	未来を創造する圏域8の字ルート等の整備促進
	主な取り組み	圏域内の連携・交流推進
圏域版第2次総合戦略	主要施策	未来をひらく交通ネットワークの形成
	重点プロジェクト	2つの湖を介する「8の字ルート」等の早期完成 新幹線ネットワークの整備
	KPI	

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	8月・2月	①ブロック経済協議会との合同勉強会・意見交換会	7～8月	④関連事業 SDGSバスツアーの開催(圏域)
	夏期・秋期	②圏域インフラ整備に係る要望活動		
	5月	③中国横断新幹線整備推進会議 負担金納付		
	2月	④全国街道交流会議第13回全国大会の開催		

本事業の経過及び関連する主要データ

【本事業の経過】	
①ブロック経済協議会との合同勉強会・意見交換会	
H28	1 株式会社クルーズパケーション 代表取締役 木島 榮子 氏 2 中海・宍道湖・大山圏域DMO(仮称)の設立について
H29	1 兵庫県豊岡市 副市長(一社 豊岡観光イノベーション副理事長) 真野 毅 氏 2 国土交通省 観光庁 観光地域振興部長 米村 猛 氏
H30	1 一般社団法人 中国経済連合会 部長 高見 佳宏 氏 2 主催:市長会「台湾との経済交流等について」説明 「新幹線について」報告
R1	1 主催:市長会「圏域版総合戦略」「新幹線整備促進」「台湾との経済交流等」報告 2 東京大学地域未来社会連携研究機構 機構長 松原 宏 氏
R2	1 読売テレビ報道局兼制作局チーフプロデューサー 境港市観光協会会長 結城 豊弘 氏 2 国土交通省中国地方整備局道路部長 松浦利之 氏
R3	1 東京大学地域未来社会連携研究機構 機構長 松原 宏 氏 2 クラブツーリズム株式会社 地域共創事業部 部長 樋山智彦氏
R4	1 東京大学未来ビジョン研究センター 教授 高村ゆかり氏 2 「中海・宍道湖・大山圏域8の字ルート研究会」中間報告 報告者:米子市 八幡総合政策部長 「8の字ネットワーク整備の効果分析の検討」について 報告者:松江国道事務所 近藤所長
R5	1 筑波大学 名誉教授 石田東生 氏 2 「重要インフラ圏域内連携方策の検討について」報告者:ブロック経済協議会 幹事長 森田豊充 氏 内閣府 沖縄総合事務局 運輸部長 沖縄観光総合施策推進室長 星明彦 氏/一般社団法人Expe 代表理事 広瀬徹 氏 一般社団法人山陰インバウンド機構 代表理事 野浪健 氏

総合戦略推進委員会での評価及び意見

【意見】	<ul style="list-style-type: none"> ・地元に住んでいる人にとっても、数年ぶりに訪れてみると大きな変化(進化)に驚き、楽しめるスポットもあるものである。まずは、地元の人にPRしていくことも大切である。(R3年度) ・この圏域は経済圏域がまとまっていて、とても住みやすい。車で移動する方が多いため、暮らしている場所と働いている場所が違う方が多い。そういった方が困っている事が、圏域で何かをしようといった時の論点になるのではないかと。(R4年度) ・人口の社会増への対策として、行政・学校・経済界が連携し、圏域各市の様々な特色を生かした取り組みにより、就職の機会を増加していくことが必要。(R4年度)
------	---

圏域市長会 主要事業調査

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域内の交流推進 人材育成の共同化

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域内における人的交流の推進による一体感の醸成を図り、圏域を担う人材育成に向けた取組を行う。	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	目標(何を達成するのか)	設定なし				
	次代を担う人事育成と、人的ネットワークの構築					

事業内容	<p>中海・宍道湖・大山圏域の未来を切り開く推進力となる人材育成を目的に、中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会と共同で研修会を開催し、受講者が多彩な分野の講師による経験・理論を学んで視野を広げるとともに、企画力・想像力を磨く機会を提供する。 また、受講者同士の交流を通じて業種や地域の垣根を越えた人的ネットワークの構築を推進する。</p> <p>官民が連携した人材育成研修会「山陰まんなか未来創造塾」</p>
------	--

	R4実績	R5実績	R6計画
事業の成果及び実績	<p>・山陰まんなか未来創造塾 令和5年1～3月に計三回を開催 講師:殿村美樹氏</p> <p>・圏域未来人材の育成【DXセミナー(行政職員向け)】 R4.9.16 オンライン開催(63名参加) 【DXセミナー(行政+民間事業者)】 R4.10.26 オンライン開催(18名参加)</p> <p>・発明楽普及支援事業 令和5年3月実施 鳥取県5校、島根県2校、宮城県1校 計8校 総勢56名の高校生が参加。 このうち最終審査に圏域の3校(米子東高校・米子高専・出雲高校)が出場</p>	<p>・山陰まんなか未来創造塾 12月19日 講師:佐藤裕久氏 1月12日 地元企業視察:一畑電車株式会社 2月15日 地元企業視察 三光株式会社</p> <p>・発明楽普及支援事業 令和6年3月実施 鳥取県3校、島根県1校 計4校 総勢37名の高校生参加 このうち最終審査に圏域から、3校(米子東高校・米子西高・出雲高校)が出場</p>	<p>・山陰まんなか未来創造塾の開催 1,200千円</p> <p>・発明楽普及支援事業 500千円</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4	R5		R6	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	1,446	1,700		1,537	1,700
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0
	補助金	0	0	0	0
	特定負担金	0	0	0	0
	一般負担金	1,446	1,700	1,537	1,700
歳入合計	1,446	1,700		1,537	1,700

課題	事業開始当初から比べると、参加者が減少している。圏域の官民の若手人材が参加したくなるような内容や手法を検討する必要がある。	方向性	圏域の行政と経済界が一体となった貴重な人材育成の機会となっており、行政と経済界で構成される実行委員会で、求められる人材や運営手法を協議し、今後の圏域を担う人材育成及び人的ネットワーク構築に寄与する研修会を継続して実施する。
----	---	-----	---

圏域振興ビジョン	基本方向	ともに歩む圏域づくり
	基本目標	デジタル時代を支える基盤整備と人材育成
圏域版第2次総合戦略	主な取組み	圏域内の連携・交流推進
	主要施策	恵まれた生活環境を生かした圏域の形成
	重点プロジェクト	圏域への移住・定住の促進
KPI		

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
		実行委員会の開催	9月～12月	発明楽普及支援補助金交付手続き
		開催案内、受講生募集	2月～3月	発明楽コンテスト
	山陰まんなか未来創造塾の開催			

本事業の経過及び関連する主要データ						
【本事業の経過】						
●H25～H27年度 松江商工会議所事業として開催 ●H28年度以降 市長会事業として開催						
山陰まんなか未来創造塾 講師一覧(肩書は当時) 平成28年度～市長会事業						
H28～市長会事業	予算額:5,500,000円 参加者:51名	R1	予算額:1,200,000円 参加者:41名			
木村 俊昭	(一社)日本事業構想研究所 代表理事	松橋 正明	(株)セブン銀行 専務執行役員			
ロバート・キャンベル	東京大学大学院教授	宗次 徳二【中止】	カレーハウスcoco壱番屋創業者			
井原 勝美	ソニーファイナンスホールディングス 取締役会長	R2	予算額:1,200,000円 参加者:33名			
真鍋 精志	JR西日本 取締役会長	宗次 徳二	カレーハウスcoco壱番屋創業者			
H29	予算額:2,700,000円 参加者:51名	長谷川 幸洋	ジャーナリスト			
	地方創生カレッジ官民連携講座	R3	予算額:1,200,000円 参加者:28名			
玉村 雅敏	慶應義塾大学 総合政策学部教授	伊藤 聡子	キャスター コメンテーター			
横田 浩一	慶應義塾大学 大学院メディア研究科	永濱 利廣	エコノミスト			
松本 謙	(株)ファーマーズ・フォレスト 代表取締役社長	R4	予算額:1,200,000円 参加者:30名			
H30	予算額:1,200,000円 参加者:41名	殿村 美樹	PRプロデューサー			
藤山 浩	(一社) 持続可能な地域社会総合研究所	R5	予算額:1,200,000円 参加者:40名			
藤山 浩	(一社) 持続可能な地域社会総合研究所	佐藤 裕久	(株)バルニバービ代表取締役会長CEO兼COO			
デービッド・アトキンソン	(株)小西美術工芸社代表取締役	地元企業視察	一畑電車株式会社、三光株式会社			
○山陰まんなか未来創造塾開催経費に係るブロック協との負担状況(参考)						
	R5	R4	R3	R2	R1	H30
市長会 事業負担金(円)	736,234	626,615	763,663	905,294	305,400	825,000
行政職員 参加会費計(円)	300,000	320,000	32,000	37,400	165,000	375,000
参加費相当人数	15	16名	32名	17名	22名	15名
参加費/人(円)	20,000	20,000	1,000	2,200	7,500	2,500
合計額(円)	1,036,234	946,615	795,663	942,694	470,400	1,200,000
ブロック協 事業負担金(円)	736,235	626,615	763,663	926,000	373,200	1,000,000
民間職員(ブロック協) 参加会費(円)	430,000	390,000	23,000	110,000	142,500	650,000
参加費相当人数	25名	22名	23名	16名	19名	26名
参加会費(円)/人	20,000	20,000	1,000	4,400	7,500	25,000
合計額(円)	1,166,235	1,016,615	786,663	908,815	515,700	1,650,000

総合戦略推進委員会での評価及び意見	
【評価】	
【意見】	<ul style="list-style-type: none"> ・知財創造教育の普及、あるいは特徴ある教育として取り組んでいくことも考えられる(R元年度) ・費用対効果の検証が必要。特に、貴重な人材を派遣した民間の経営者の方が、どのように評価されているのか検証していくべき(R5年度) ・市長会が目指す人材のビジョンが見えにくい(R5年度)

圏域市長会 主要事業調査

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域内の交流推進 文化・スポーツ交流促進事業

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域内の歴史資源、伝統芸能、スポーツ、芸術など、相互交流を推進する。	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	目標(何を達成するのか)	設定なし				
	魅力ある圏域を知り、心豊かな生活環境を創出する。					

事業内容	圏域内の歴史資源、伝統芸能、スポーツ、芸術等、相互交流を推進することにより、魅力ある圏域を知り、心豊かな生活環境を創出する。 ①スポーツを通じた圏域交流イベントの開催 ②各市で開催される伝統芸能の披露などによる文化交流イベント開催支援
------	---

	R4実績	R5実績	R6計画
事業の成果及び実績	①スポーツを通じた圏域交流イベント ～トップアスリートとあそぼう～「キッズふれあいスポーツフェスティバル」(令和5年2月下旬 松江市総合体育館)を開催 ②各種イベントへの交流事業経費 ・第77回みなと祭り(境港市) ・第17回出雲神話まつり(出雲市) ・松江伝統芸能祭(松江市)	①スポーツを通じた圏域交流イベント ～トップアスリートとあそぼう～「キッズふれあいスポーツフェスティバル」(令和5年2月23日:鳥取県立米子産業体育館)を開催 ②各種イベントへの交流事業経費 ・よどえ夢まつり(米子市) ・第78回みなと祭り(境港市) ・玉造夜芸(松江市) ・松江水燈路(松江市) ・第18回出雲神話まつり(出雲市) ・第25回やすぎ刃物まつり(安来市) ③中海・宍道湖レガッタ開催支援	①スポーツを通じた圏域交流イベント 新型コロナウイルス感染症を注視しながら、「スポーツを始めるきっかけづくり」と「圏域内の子どもたちの交流」を視点に事業を組み立てる。 ②各種イベントへの交流事業経費 従来通り、各市のイベントにあわせ交流事業イベントに対し支援する。

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4		R5		R6	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	予算	
事業費	1,261	2,900	2,810	1,957	2,400	
財源内訳	国・県支出金	0	0		0	0
	補助金	0	0		0	0
	特定負担金	0	0		0	0
	一般負担金	1,261	2,900	2,810	1,957	2,400
歳入合計	1,261	2,900	2,810	1,957	2,400	

課題	トップアスリートの交流を主眼とした事業であるが、団体側の参加が弱まっているため、事業主旨をよりご理解いただく努力が必要である。	方向性	定期的に効果分析を行い、手法や内容を修正しながら、更なる圏域の一体感の醸成を図られるよう、事業継続していく。
----	---	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	次代へつなぐ圏域づくり
	基本目標	歴史・文化の継承と活用
	主な取組み	圏域内の連携・交流促進
圏域版第2次総合戦略	主要施策	
	重点プロジェクト	
	KPI	

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	10、2月	①スポーツを通じた圏域交流イベント		
適時	②イベント交流事業			

本事業の経過及び関連する主要データ			
【本事業の経過】			
①スポーツを通じた圏域交流イベント H30予算において、圏域の冠大会ができないか提案があり予算化されたもの。その後、特定の競技で事業はなく、スポーツを通じた交流事業が2回開催されている。 R1 「～トップアスリートとあそぼう～ キッズふれあいスポーツフェスティバル」(松江市総合体育館) R2 新型コロナウイルス感染症の影響で開催見送り R3 新型コロナウイルス感染症の影響で開催見送り R4 「～トップアスリートとあそぼう～ キッズふれあいスポーツフェスティバル」(松江市総合体育館) R5 「～トップアスリートとあそぼう～ キッズふれあいスポーツフェスティバル」(鳥取県立米子産業体育館) ●参加人数			
H30	R1	R4	R5
124名(62組)	160名(80組)	84名(42組)	92名(46組)
②各市で開催されるイベントにおける伝統芸能の披露など交流事業 圏域住民の交流を促進し圏域の一体感醸成を推進するため、H22旧中海市長会時代から補助事業として実施。その後、委託事業。H30年度には圏域の伝統芸能祭が開催されたため、事業は実施されなかった。R1年度から再開されている。 (R5事業実施状況)			
開催市	イベント名	実施日	招致団体等
米子市	よどえ夢まつり(第40回淀江町産業祭)	10月22日	安来節保存会(安来市)、関乃五本松節保存会(松江市)
境港市	第78回みなと祭り	7月23日	原田神楽保存会(出雲市)
松江市	玉造夜芸	9月25日～10月1日	一字川耕士一行(安来節)(安来市)
	松江水燈路	10月7日	永春神楽団(出雲市)
出雲市	第18回出雲神話まつり	8月20日	川津ふる里太鼓(松江市)
安来市	第25回やすぎ刃物まつり	10月7～8日	まつえ若武者隊(松江市)
③中海宍道湖レガッタ開催支援事業 開催日:10月15日(日) 場所:錦海ボートコース(米子市西町) 参加者:250名			
総合戦略推進委員会での評価及び意見			
【評価】			
【意見】			

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域内の交流推進 移住・定住促進事業

事業の目的と目標	目的 (何のために)	数値目標				
	圏域人口60万人の維持に向けた移住・定住等の促進を図る。	項目(成果指標)	R4実績	R5実績	R6計画	目標値
	目標 (何を達成するのか)	設定なし				
	圏域内への移住・定住の促進 首都圏大学関係人口の創出 圏域での人材育成と若者の地域定着					

事業内容	①婚活事業による移住・定住の促進に向けた取組 圏域内に居住、通勤通学または定住を考える独身男女を対象に、結婚相手の出会う機会を創出する。未婚化、晩婚化の改善をはかり、圏域における移住・定住の促進につなげる。
	②東京大学との圏域キャンパス事業 首都圏大学に通う学生との関わりを持つことで関係人口の創出を図る。また圏域を研究フィールドとして提供し、圏域住民との交流を図る。
	③島根大学・若者を共に育てるプロジェクト 学生が圏域の特色・戦略・課題を学ぶ機会を創出し、圏域で活躍する人材の育成と、若者の地域への定着促進を図る。
	④圏域学生地域活動支援事業 圏域の学生による地域の魅力発信や活性化に資する活動に対し、助成を行い、地域に愛着を持つきっかけを作り、関係人口の拡大や地元への定着を図る。

	R4実績	R5実績	R6計画
事業の成果及び実績	①婚活事業 新型コロナウイルス感染症を注視しながら、安心して参加できる婚活イベント等を実施する。 ②東京大学との圏域キャンパス事業 東京大学本学のプログラムに基づき、学生の体験活動プログラム、圏域でのフィールドワークを実施する。 ③島根大学・若者を共に育てるプロジェクト 「イノベーション創生セミナーⅠ」 地域人材育成コースの入学案内の作成 「イノベーション創生セミナーⅡ」 2号上屋の利活用(境港市)、五本松公園の利活用(松江市) 「中山間地域フィールド演習」 出雲市伊野地区	①婚活事業 事前セミナー(男性向け)、バスツアー、再会パーティを実施した。 ②東京大学との圏域キャンパス事業 東京大学本学のプログラムに基づき、学生の体験活動プログラム、圏域でのフィールドワークを実施した。 ③島根大学・若者を共に育てるプロジェクト 「イノベーション創生セミナーⅠ」 地域人材育成コースの入学案内の作成 「イノベーション創生セミナーⅡ」 八束町大根島(松江市)	①婚活事業 圏域のスケールメリットを活かした婚活イベント等を実施する。 ②東京大学との圏域キャンパス事業 東京大学本学のプログラムに基づき、学生の体験活動プログラムを実施し、交流人口の創出を図る ③島根大学・若者を共に育てるプロジェクト 島根大学の学生に、圏域の特色や課題を学ぶ場を提供し、将来的に圏域で活躍する人材の育成と圏域への定着促進を図る ④圏域学生地域活動支援事業 圏域の学生による地域の魅力発信や活性化に資する活動に対する、補助金の助成

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R4	R5		R6	備考	
	決算	当初予算	補正・流用後	決算		予算
事業費	2,411	3,330		2,299	3,130	
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	
	補助金	0	0	0	0	
	特定負担金	942	1,300		926	1,300
	一般負担金	1,469	2,030		1,373	1,830
歳入合計	2,411	3,330		2,299	3,130	

課題	婚活事業や大学との連携事業は成果、効果について整理し、分かりやすく示す必要がある。また、圏域のスケールメリットを生かした移住定住に係る施策を検討する必要がある。 東京大学、島根大学との連携については、各市から提供できる内容のバリエーションを増やすとともに、各大学の目的に沿った取組みとなるように調整する必要がある。	方向性	島根県や鳥取県等の関係団体等との連携により、より効果的な事業を行う。また学生からの提案等をいかした事業の検討を行う。 東京大学と連携した事業について、事業効果等検証しつつ、スリム化を図る。
----	--	-----	---

圏域振興ビジョン	基本方向	ともに歩む圏域づくり
	基本目標	圏域への移住・定住の促進
	主な取組み	圏域内の連携・交流推進
圏域版第2次総合戦略	主要施策	恵まれた生活環境を生かした圏域の形成
	重点プロジェクト	圏域への移住・定住の促進
	KPI	

R6スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	8月	東京大学フィールドワーク受入		
	6月	島根大学(前期)フィールドワーク受入		
	11月	島根大学(後期)フィールドワーク受入		
	10月～12月	結婚促進事業の開催		

本事業の経過及び関連する主要データ									
【本事業の経過】									
①婚活事業による移住・定住の促進に向けた取組み					※R元年度より市長会事業として実施。				
実績等					※応募者、参加者は米子会場、松江会場の合計				
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R4年度	R5年度	
応募者	239	293	246	234	238	325	—	—	
参加者	207	251	178	151	141	155	45	48	
カップル成立	22	22	22	22	16	17	9	13	
追跡調査	6	8	4	2	1	1	—	—	
※令和2年度及び3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、結婚支援員を対象としたセミナーを開催。									
②東京大学との圏域キャンパス事業									
○フィールドスタディ型政策協働プログラム 地域課題解決に向けて、東京大学の学生が、事前調査、現地活動、事後調査を通じて、一年をかけて解決の道筋の提案を行う。									
○体験活動プログラム 東京大学独自のプログラムとして平成24(2012)年度から国内外問わず実施。ボランティアなど社会貢献活動、国際交流、農林水産業や地域体験、学内研究室体験など、学生がこれまでの生活と異なる文化・価値観に触れる取組み。									
テーマ									
	フィールドスタディ型政策協働プログラム					体験活動プログラム			
R3	うんばく3城連携誘客について～地域連携による滞在型ツーリズムをデザイン～					ラムサール条約湿地「宍道湖」「中海」で水環境と生態系保全の未来を考える			
R4	観光DXで中海・宍道湖・大山圏域の未来を描く～うんばく3城を中心に～					ラムサール条約湿地「宍道湖」「中海」で水環境と生態系保全の未来を考える			
R5	交流人口を呼び込め！～ココビトが綴る日本の面影～					ラムサール条約湿地「宍道湖」「中海」で水環境と生態系保全の未来を考える			
③島根大学・若者を共に育てるプロジェクト									
H31より開始。学生に各市の総合戦略についての説明、フィールドワーク等の協力をしている。									
R3 バスツアーによるフィールドワークにて、現地説明等を実施。									
R4 フィールドワークにおいて、現地説明等を実施。(前期:各市魅力発信に係るFW、後期:境港市と松江市の地域FW)									
R5 フィールドワークにおいて、現地説明等を実施。(前期:各市魅力発信に係るFW、後期:松江市の地域FW)									

総合戦略推進委員会での評価及び意見	
【評価】	
【意見】	<ul style="list-style-type: none"> 結婚支援は広域で取り組むことは有効。(H30年度) 圏域は災害も少なく、暮らしやすい地域。生産年齢人口を増やすためにも、子育て世代が定着するような施策を行っていくべき。(R4年度) 婚活イベントを行い成婚したとして、このことが本当に移住定住につながるか分析をする必要がある。(R5年度)